

2026 年度

授業シラバス



学校法人阪和学園 錦秀会看護専門学校

シラバス 目次

1 年次

〈基礎分野〉

論理学	1
物理学	2
生命科学	3
倫理学	4
心理学	5
社会学	6
スポーツ科学Ⅰ	7

〈専門基礎分野〉

解剖生理学Ⅰ	8
解剖生理学Ⅱ	9
解剖生理学Ⅲ	10
解剖生理学Ⅳ	11
解剖生理学Ⅴ	12
生化学	13
栄養学	14
薬理学	15
微生物学	16
病態生理学総論	17
病態生理学Ⅰ	18
病態生理学Ⅱ	20
病態生理学Ⅲ	21
病態生理学Ⅳ	22
総合医療論	23

〈専門分野〉

看護学概論Ⅰ	24
基礎看護学方法論Ⅰ	25
基礎看護学方法論Ⅱ－1	26
基礎看護学方法論Ⅱ－2	27
基礎看護学方法論Ⅱ－3	28
基礎看護学方法論Ⅲ	29
基礎看護学方法論Ⅳ	30
基礎看護学方法論Ⅴ	31
基礎看護学方法論Ⅵ	33
地域看護学概論	34
成人看護学概論	35
老年看護学概論	36
精神看護学概論	37

シラバス 目次

2 年次

〈基礎分野〉

情報科学	3 9
教育学	4 1
人間関係論	4 2
医療英語	4 4
スポーツ科学Ⅱ	4 5

〈専門基礎分野〉

病態生理診断学	4 6
関係法規	4 7
社会福祉論	4 8
公衆衛生学	4 9
レクリエーション論	5 0

〈専門分野〉

看護学概論Ⅱ	5 1
基礎看護学方法論Ⅶ	5 2
地域看護学方法論Ⅰ	5 3
地域看護学方法論Ⅱ	5 4
地域看護学方法論Ⅲ	5 5
成人看護学方法論Ⅰ	5 6
成人看護学方法論Ⅱ	5 7
成人看護学方法論Ⅲ	5 8
成人看護学方法論Ⅳ	5 9
成人看護学方法論Ⅴ	6 0
老年看護学方法論Ⅰ	6 1
老年看護学方法論Ⅱ	6 2
小児看護学概論	6 3
小児看護学方法論Ⅰ	6 4
小児看護学方法論Ⅱ	6 5
小児看護学方法論Ⅲ	6 6
母性看護学概論	6 7
母性看護学方法論Ⅰ	6 8
母性看護学方法論Ⅱ	6 9
母性看護学方法論Ⅲ	7 0
精神看護学方法論Ⅰ	7 1
精神看護学方法論Ⅱ	7 2
看護の統合と実践Ⅱ	7 3
看護の統合と実践Ⅲ	7 4

3 年次

〈専門分野〉

看護の統合と実践Ⅰ	7 5
看護の統合と実践Ⅳ	7 7

カリキュラム 別表1 授業科目・単位数および時間数（看護専門課程 看護学科）

区分	授業科目	単位	時間数	1年次 単位	時間	2年次 単位	時間	3年次 単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	1	30			
		情報科学	2	45		2	45		
		物理学	1	30	1	30			
		生命科学	1	30	1	30			
	人間と人間生活・ 社会の理解	教育学	1	30		1	30		
		倫理学	1	30	1	30			
		心理学	1	30	1	30			
		人間関係論	2	45		2	45		
		社会学	1	30	1	30			
		医療英語	1	30		1	30		
		スポーツ科学Ⅰ	1	15	1	15			
		スポーツ科学Ⅱ	1	30		1	30		
	小計		14	375	7	195	7	180	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（人体の構造）	1	15	1	15			
		解剖生理学Ⅱ（呼吸・循環・体温）	1	30	1	30			
		解剖生理学Ⅲ（消化吸収）	1	30	1	30			
		解剖生理学Ⅳ（人体の恒常性）	1	30	1	30			
		解剖生理学Ⅴ（脳神経・感覚器）	1	30	1	30			
		生化学	1	30	1	30			
		栄養学	1	30	1	30			
	疾病の成り立ちと 回復の促進	薬理学	1	30	1	30			
		微生物学	1	30	1	30			
		病態生理学総論	1	15	1	15			
		病態生理学Ⅰ（呼吸器・循環器・血液・腎泌尿器）	2	45	2	45			
		病態生理学Ⅱ（消化器・内分泌・代謝・免疫）	1	30	1	30			
		病態生理学Ⅲ（脳神経・運動・感覚器）	1	30	1	30			
		病態生理学Ⅳ（小児・精神・女性生殖器）	1	30	1	30			
	健康支援と 社会保障制度	病態生理診断学	1	30		1	30		
		関係法規	2	30		2	30		
		社会福祉論	1	30		1	30		
		総合医療論	1	30	1	30			
		公衆衛生学	1	15		1	15		
		レクリエーション論（アロマセラピー・音楽療法）	1	30		1	30		
	小計		22	570	16	435	6	135	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1	30			
		看護学概論Ⅱ（看護倫理・看護理論）	1	30		1	30		
		基礎看護学方法論Ⅰ（ヒューマンケアの基本技術）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅱ-1（環境・活動・休息）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅱ-2（清潔・衣生活）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅱ-3（食事・排泄）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅳ（呼吸・循環を整える技術）	1	15	1	15			
		基礎看護学方法論Ⅴ（創傷管理・与薬・感染予防・安全）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅵ（看護診断）	1	30	1	30			
		基礎看護学方法論Ⅶ（臨床実践）	1	30		1	30		
	地域・在宅看護論	地域看護学概論	1	30	1	30			
		地域看護学方法論Ⅰ（在宅看護技術）	2	30		2	30		
		地域看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30		1	30		
		地域看護学方法論Ⅲ（地域連携論）	2	45		2	45		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30			
		成人看護学方法論Ⅰ（生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護）	1	30		1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ（生体防衛の低下、感染により障害を受けた人の看護）	1	30		1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ（身体の一部を喪失した人の看護）	1	30		1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ（生命危機状態にある人の看護）	1	30		1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ（事例展開）	1	30		1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30			
		老年看護学方法論Ⅰ（老年者の看護）	2	30		2	30		
		老年看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30		1	30		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		1	30		
		小児看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	1	30		1	30		
		小児看護学方法論Ⅱ（小児の援助技術）	1	30		1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30		1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		1	30		
		母性看護学方法論Ⅰ（周産期の看護）	1	30		1	30		
		母性看護学方法論Ⅱ（母性援助技術）	1	30		1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30		1	30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30			
		精神看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	2	30		2	30		
		精神看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30		1	30		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（医療安全・救急看護・災害看護）	2	60				2	60
		看護の統合と実践Ⅱ（国際看護）	1	30		1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）	1	30		1	30		
		看護の統合と実践Ⅳ（看護管理・統合演習）	1	30				1	30
	小計		44	1200	13	375	28	735	3
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45			
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90		2	90		
		地域看護学実習	2	90				2	90
		成人老年看護学実習Ⅰ	2	90		2	90		
		成人老年看護学実習Ⅱ	2	90		2	90		
		成人老年看護学実習Ⅲ	2	90				2	90
		小児看護学実習	2	90				2	90
		母性看護学実習	2	90				2	90
		精神看護学実習	2	90				2	90
		アクティブエイジング実習	2	90				2	90
		ヘルスプロモーション実習	2	90				2	90
		統合実習	2	90				2	90
	小計		23	1035	1	45	6	270	16
合計			103	3180	37	1050	47	1320	19
教科外活動				258		68		84	
総計			103	3438	37	1118	47	1404	19

MEMO

[illegible]

1 年次

科目名		論理学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		多田 英泰			前期	
実務経験		各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
授業概要		接続関係、連言命題、選言命題、全称命題、存在命題、帰納、仮説形成などの性質を順次学習する。				
科目目標		1. 正確な表現能力を身につける 2. 基礎的な論理法則を理解する 3. 演繹・帰納・仮説形成という推論の性質を理解する 4. 最終的に、論理的に考え、行動することの大切さを理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	「論理的」とはどういうことか 論理学を学ぶ意義について			講義	多田
2	2	接続関係 (1) 基礎編			講義	
3	2	接続関係 (2) 発展編			講義	
4	2	命題と否定 (1) 「AかつB」と「AまたはB」			講義	
5	2	命題と否定 (2) 「全てのAは～」と「あるAは～」			講義	
6	2	条件文 (1) 「AならばB」 「逆」「裏」「対偶」			講義	
7	2	条件文 (2) 条件文の否定 必要条件と十分条件			講義	
8	2	三段論法 (1) 基礎編			講義	
9	2	三段論法 (2) 発展編			講義	
10	2	演繹の技術			講義	
11	2	推論のいろいろなやり方			講義	
12	2	仮説形成と隠れた前提			講義	
13	2	長い文章を要約するポイント			講義	
14	2	全体の振り返り 重要ポイントの整理と総合演習			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		NHK「ロンリのちから」制作班、「入門！論理学」中央公論社				
備 考						

科目名		物理学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		白神 達也			前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				理学博士		
授業概要		身近な検査法や技術を例に取り上げながら、看護学生と物理学の関わりを学び、物理学の原理の理解を深める。また、看護の非常事態にも論理的に考え、解決する能力を身に付ける。				
科目目標		1. 物理学とは何かを学ぶ 2. 物理学の基本法則を理解し、看護に必要な基礎的知識を学ぶ 3. 看護技術を通して論理的に考える力を学ぶ				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	物理に用いる基本数学			講義	白神
2	2	移動動作に必要な力の加減 ベクトル・力の合成			講義	
3	2	体位変換に役立つトルクの知識 三角関数			講義	
4	2	安定・不安定 力学を人体に適用する モーメント			講義	
5	2	安定・不安定			講義	
6	2	熱の伝わり方			講義	
7	2	圧力の基礎知識 動圧と制圧の関係性			講義	
8	2	圧力 水圧			講義	
9	2	酸素と圧力の関係およびその性質 ベルヌーイの定理			講義	
10	2	低圧持続吸引装置の原理 3 連びん			講義	
11	2	ボイル＝シャルル			講義	
12	2	胃洗浄とサイフォン			講義	
13	2	静脈内点滴や輸血療法 経管栄養を実施する際の体液の滴下速度			講義	
14	2	国家試験対策			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院				
備 考						

科目名		生命科学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		清水 尚子			前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				医学博士		
授業概要		高校生物で学習した基礎的な知識をより発展的に深めるため、知識が得られた時の背景や具体的な研究事例も含め学ぶ。また、高校生物からより発展的に生命現象を理解する能力を育成する。現代の医療現場に導入されつつある先端バイオ技術に対応できるように最新の知識を学び、これらを通して、豊かな人間性を養い、柔軟性のある価値観を育成する。				
科目目標		1. 生命科学とは何か、歴史と原則を学ぶ 2. 遺伝子診断、遺伝子治療、先端バイオ医療について理解する 3. 細胞生物学や分子生物学を理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	生物の特徴と細胞 (生命の起源、生命の系統、生物の分類、細胞構造、細胞内小器官)			講義	清水
2	2	生命を構成する分子・生命体のつくりとはたらき (水、タンパク質、糖質、脂質、核酸、ATP、酵素、エネルギー代謝)			講義	
3	2	生命維持のエネルギー			講義	
4	2	細胞の増殖とからだのなりたち			講義	
5	2	遺伝子情報とその発現・伝達のしくみ〈DNA〉 (遺伝子、DNA複製、DNA損傷、DNA修正、岡崎フラグメント、変異、組換え、染色体、ゲノム、エピジェネティックス、ゲノムインプリンティング)			講義	
6	2	遺伝子情報とその発現・伝達のしくみ〈RNA〉 (転写調節機構、原核生物と真核生物の遺伝子構造、転写、イントロン、エキソン、転写後修飾、スプライシング、翻訳、翻訳後修飾、RNAワールド)			講義	
7	2	遺伝子情報とその伝達・発現のしくみ 〈細胞の分裂、増殖、死〉 (細胞周期、減数分裂、アポトーシス、ネクローシス)			講義	
8	2	生殖、発生、分化			講義	
9	2	動物の組織・器官 個体の調節 (ホルモンと生体調整)			講義	
10	2	動物の組織・器官 (細胞間情報伝達、細胞内情報伝達)			講義	
11	2	神経系 (神経興奮の発生と伝達)			講義	
12	2	刺激の受容と行動 免疫			講義	
13	2	刺激の受容と行動 微生物と感染症			講義	
14	2	癌と老化 (がん遺伝子) まとめ			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院				
備 考						

科目名		倫理学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		村上 允俊			後期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部 の講義経験が豊富な講師が担 当する		関連資格		
授業概要		倫理学をその基礎理論から生命倫理や看護倫理に至るまで、看護師になるにあたって必要とされる部分を一通り学びます。事項を正確に理解することは大切ですが、そこにどのような倫理的問題があるか、自分はその問題に対してどういう意見を持つか、という所まで一緒に考えていけたらと思っています。				
科目目標		1. 倫理学の基礎的な理論を理解する 2. 生命倫理や看護倫理の歴史について学び、その要点を理解する 3. 倫理的問題を伴う医療分野のトピックに関心を持ち、自分なりに考えることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	倫理学の基礎（1）倫理とは何か			講義	村上
2	2	倫理学の基礎（2）功利主義			講義	
3	2	倫理学の基礎（3）義務論			講義	
4	2	応用倫理学と未来倫理			講義	
5	2	生命倫理の歴史と原則			講義	
6	2	インフォームド・コンセント概説			講義	
7	2	終末期医療と倫理			講義	
8	2	先端医療と倫理			講義	
9	2	優生学・社会ダーウィニズムと医学の歴史			講義	
10	2	ノーマライゼーションの理論と歴史			講義	
11	2	性と生殖に関わる倫理学			講義	
12	2	看護倫理			講義	
13	2	ケアの倫理と正義の倫理：C・ギリガンの問題提起			講義	
14	2	研究倫理			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
備 考						

科目名		心理学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		野村 佳香			後期	
実務経験		学校や大学にて講師経験あり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格 心理学学士		
授業概要		心理学全般の基礎知識をもとに、人の心理に関する様々な考え方の理解、および自己理解、他者理解とともに看護場面における心理的援助について学んでいきます。				
科目目標		1. 心理学とは何かを学ぶ 2. 発達における心理学を理解する 3. 看護における心理を理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	オリエンテーション 第1章：心理学とは			講義	野村
2	2	第1章：心理学とは			講義	
3	2	第2章：感覚と知覚			講義	
4	2	第3章：記憶			講義	
5	2	第4章：思考・言語・知能			講義	
6	3	第4章：思考・言語・知能 第5章：学習			講義	
7	2	第5章：学習			講義	
8	2	第6章：感情と動機づけ			講義	
9	2	第7章：性格とパーソナリティ ストレスチェック・ストレス耐性・エゴグラム			講義	
10	2	第8章：社会と集団			講義	
11	2	第8章：社会と集団 第9章：発達			講義	
12	2	第10章：心理臨床			講義	
13	2	第11章：医療・看護と心理			講義	
14	2	第11章：医療・看護と心理			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院				
備 考						

科目名		社会学			科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		中西 久雄				前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格		
					工学博士		
授業概要		社会学は人と人のかかわりや、人間生活を支える社会の仕組みについて学ぶ学問である。この講義は現在世界中で問題となっている「少子高齢化」を大きなテーマに、この問題を生み出している原因について様々な側面から考えることによって、人と社会について関心を持ち、看護の場で出会う人や自分自身を取り巻く環境に関心の目を向ける姿勢を養う。					
科目目標		1. 社会学の基礎を学ぶ 2. 現代社会の現状を理解する 3. 地域における人々の生活や健康を理解する					
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員	
1	2	社会科学とは何か、社会学とは何か、社会学を学ぶ意義			講義	中西久	
2	2	少子高齢化社会とは			講義		
3	2	QOL、幸福、満足とは			講義		
4	2	結婚とは			講義		
5	2	家族とは			講義		
6	2	ワーク・ライフ・バランス			講義		
7	2	ダブルケア～子育て・孫育と介護			講義		
8	2	「サポート」とは			講義		
9	2	人のつながりと健康			講義		
10	2	地域で健康を支えること			講義		
11	2	地域や人々の生活について調べる～社会調査の方法と実践～			講義		
12	2	地域や人々の生活について調べる～社会調査の方法と実践～			講義		
13	2	地域や人々の生活について調べる～社会調査の方法と実践～			講義		
14	2	地域や人々の生活について調べる～社会調査の方法と実践～			講義		
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		教科書は使用しません。参考図書は講義中に提示します。					
備 考		授業の進行状況、皆さんの興味関心によってはシラバスを変更する場合があります。その際は、随時説明します。					

科目名		スポーツ科学Ⅰ			科目区分	基礎分野		
授業時数 (単位数)		15 (1)			開講時期	1年次		
担当教員		山本 隆宣				前期		
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部 の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格			
					医学博士			
授業概要		現在、個人や社会において生活習慣病等における健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。						
科目目標		1. 運動・スポーツの概念を理解する 2. 運動が身体精神に与える影響を理解する 3. 文化的認識の形成を実践を通して学ぶ						
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員	
1	2	運動・スポーツと健康				講義	山本	
2	2	運動・スポーツと神経・骨格筋系				講義		
3	2	スポーツトレーニング・運動ストレスとホルモン				講義		
4	2	筋肥大・筋委縮・加齢とスポーツ・運動				講義		
5	2	寿命・生活習慣病と身体運動				講義		
6	2	栄養と運動エネルギー代謝				講義		
7	2	運動・スポーツとメンタルヘルス (心理的要因)				講義		
8	1	終講試験						
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		「健康・スポーツ科学研究」：関根 紀子（放送大学教授）放送大学教育振興会のテキストを使用します。講義資料を配布します。						
備 考		生命科学と生理学の基礎的学習はスポーツ科学を理解するのに重要である。						

科目名		解剖生理学Ⅰ (人体の構造)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		15 (1)		開講時期	1年次	
担当教員		宮田 信吾			前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格 医学博士・薬剤師		
授業概要		解剖生理学では、疾病や病態を学ぶ上で重要な基礎となる人体の基本的な成り立ちを学ぶ。人間のからだは様々な組織や細胞・臓器から成り立ち、それが正常に働くことで恒常性が保たれている。また、看護師として生体の構造や機能を知ることが看護技術を適切に実践するために重要となる。ここでは人体構成している様々な器官と細胞の構造や機能について学ぶ。				
科目目標		1. 人体を構成している各器官について理解できる 2. 各器官の働きを具体的に説明できる 3. 細胞の基本構造と働きについて理解できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	人体とは何か（人体のさまざまな器官） 細胞の構造（核・細胞小器官と細胞骨格） 細胞を構成する物質とエネルギーの生成（細胞の化学成分） エネルギーの変換とATP産生			講義	宮田
2	2	細胞の増殖と染色体・分化した細胞がつくる組織 細胞膜の構造と機能（細胞膜の構造、タンパク質、特性） 細胞膜が分ける細胞内と細胞外の体液・膜電位と細胞膜の興奮			講義	
3	2	骨格系・筋系			講義	
4	2	循環器系			講義	
5	2	呼吸器系・消化器系			講義	
6	2	泌尿器系・生殖器系・内分泌系			講義	
7	2	神経系・感覚器系			講義	
8	1	終講試験				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院				
備 考		各章ごとに確認のための小テストを行います。（成績評価の対象ではありません）				

科目名		解剖生理学Ⅱ (呼吸・循環・体温)			科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30(1)			開講時期	1年次	
担当教員		宮田 信吾				前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格 医学博士・薬剤師		
授業概要		解剖生理学では、疾病や病態を学ぶ上で重要な基礎となる人体の基本的な成り立ちを学ぶ。人間のからだは様々な組織や細胞・臓器から成り立ち、それが正常に働くことで恒常性が保たれている。また、看護師として生体の構造や機能を知することは看護技術を適切に実践するために重要となる。ここでは血液の循環とその調節に必要な心臓と肺の構造や機能、血管やリンパの循環について学ぶ。					
科目目標		1. 心臓の基本的な構造と機能について理解できる 2. リンパ管の構造、血液やリンパ液の循環について理解できる 3. 肺の基本的な構造と機能について理解できる 4. 呼吸の仕組みとガス交換、体温調整について理解できる					
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員
1	2	心臓の構造				講義	宮田
2	2	心臓の興奮とその伝達・心電図・心臓の収縮				講義	
3	2	全身の動脈と静脈・血管の構造				講義	
4	2	体循環・肺循環				講義	
5	2	末梢循環器系の構造				講義	
6	2	リンパ管の構造・リンパの循環				講義	
7	2	血液の循環の調整				講義	
8	2	胎児の血液循環				講義	
9	2	呼吸器の構成(上気道・下気道と肺)				講義	
10	2	呼吸器の構成(胸膜・縦郭)				講義	
11	2	内呼吸と外呼吸・呼吸器と呼吸運動				講義	
12	2	呼吸器量・ガス交換とガスの運搬				講義	
13	2	呼吸運動の調整				講義	
14	2	体温調整				講義	
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院					
備 考		各章ごとに確認のための小テストを行います。(成績評価の対象ではありません)					

科目名		解剖生理学Ⅲ (消化吸収)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		宮田 信吾			前期・後期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格 医学博士・薬剤師		
授業概要		解剖生理学では、疾病や病態を学ぶ上で重要な基礎となる人体の基本的な成り立ちを学ぶ。人間のからだは様々な組織や細胞・臓器から成り立ち、それが正常に働くことで恒常性が保たれている。また、看護師として生体の構造や機能を知することは看護技術を適切に実践するために重要となる。ここでは栄養の消化と吸収に必要な器官である口腔・咽頭・食道・消化管の構造と機能について学ぶ。				
科目目標		1. 口腔・咽頭・食道の基本的な構造と機能について理解できる 2. 胃の基本的な構造と機能について理解できる 3. 小腸と大腸の基本的な構造と機能について理解できる 4. 胆嚢・肝臓・膵臓の基本的な構造と機能について理解できる 5. 栄養素の消化吸収について具体的に説明できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	口腔の構造と機能			講義	宮田
2	2	咽頭と食道の構造と機能			講義	
3	2	胃の構造（胃の形状・胃壁と胃液）			講義	
4	2	胃の機能（胃の運動・胃液の分泌調整とタンパク質の消化）			講義	
5	2	小腸の構造と機能			講義	
6	2	大腸の構造と機能			講義	
7	2	肝臓と胆嚢の構造			講義	
8	2	肝臓の機能（代謝機能・解毒、排泄機能）			講義	
9	2	肝臓の機能（胆汁の生成・貯蔵機能・胎児期の造血機能）			講義	
10	2	膵臓の構造と機能（膵臓と膵液）			講義	
11	2	腹膜（腹膜と腸間膜・腹膜と内臓の位置）			講義	
12	2	栄養素の消化と吸収			講義	
13	2	タンパク質・脂肪の消化と吸収			講義	
14	2	水・電解質・ビタミンの吸収			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院				
備 考		各章ごとに確認のための小テストを行います。（成績評価の対象ではありません）				

科目名		解剖生理学Ⅳ (人体の恒常性)			科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		宮田 信吾				後期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部 の講義経験が豊富な講師が担 当する			関連資格		
					医学博士・薬剤師		
授業概要		解剖生理学では、疾病や病態を学ぶ上で重要な基礎となる人体の基本的な成り立ちを学ぶ。人間のからだは様々な組織や細胞・臓器から成り立ち、それが正常に働くことで恒常性が保たれている。また、看護師として生体の構造や機能を知ることが看護技術を適切に実践するために重要となる。ここでは血液の組成と機能、体液の調整と尿の生成、内臓機能の調整、身体の支持と運動、生殖・発生と老化の仕組みの理解に必要な各臓器の構造と機能について学ぶ。					
科目目標		1. 血液の組成と機能、各血球について理解できる 2. 腎臓の基本的な構造と機能について理解できる 3. 自律神経と内分泌器官の構造と機能について理解できる 4. 全身の骨格筋系の構造と機能について理解できる 5. 生殖器系の機能と構造について理解できる					
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員
1	2	細胞の機能				講義	宮田
2	2	血液の組成と機能・赤血球（赤血球新生・破壊） 白血球（顆粒球・血小板）				講義	
3	2	血漿タンパク質と赤血球沈降速度血液の凝固と繊維素溶解・血液型 生体の防御機能				講義	
4	2	腎臓の構造と機能（腎臓・糸球体・尿細管）・排尿路				講義	
5	2	体液の調整（水の出納・脱水・電解質・酸塩基平衡）①				講義	
6	2	体液の調整（水の出納・脱水・電解質・酸塩基平衡）②				講義	
7	2	甲状腺と副甲状腺・ホルモンの分泌調整				講義	
8	2	自律神経の機能と構造 内分泌系による調整				講義	
9	2	内分泌系による全身の内分泌腺と内分泌細胞①				講義	
10	2	内分泌系による全身の内分泌腺と内分泌細胞②				講義	
11	2	骨格とはどのようなものか・骨の連結 骨格筋の構造・骨格筋の作用・体幹の骨格と筋				講義	
12	2	上肢・下肢の骨格と筋 頸部の骨格と筋・筋の収縮・運動と代謝				講義	
13	2	男性生殖器・女性生殖器				講義	
14	2	人体の発生				講義	
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院					
備 考		各章ごとに確認のための小テストを行います。（成績評価の対象ではありません）					

科目名		解剖生理学Ⅴ (脳神経・感覚器)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30(1)		開講時期	1年次	
担当教員		石野 雄吾			後期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				理学博士		
授業概要		解剖生理学では、疾病や病態を学ぶ上で重要な基礎となる人体の基本的な成り立ちを学ぶ。人間のからだは様々な組織や細胞・臓器から成り立ち、それが正常に働くことで恒常性が保たれている。また、看護師として生体の構造や機能を知することは看護技術を適切に実践するために重要となる。ここでは情報の受容と処理に必要な神経系や脳の構造と機能、感覚器系の構造と機能について学ぶ。				
科目目標		1. 神経系の基本的な構造と機能について理解できる 2. 脳の基本的な構造と機能について理解できる 3. 感覚器系の基本的な機能と構造について理解できる 4. 脳の統合機能である本能行動と情動行動について具体的に説明できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	神経系の構造と機能（ニューロン・シナプス・中枢神経・末梢神経）			講義	石野
2	2	脊髄の構造と機能・脳の構造と機能（脳幹）			講義	
3	2	脳の構造と機能（小脳・間脳）			講義	
4	2	脳の構造と機能（大脳）			講義	
5	2	脳の構造と機能（脳室と髄膜・脳脊髄液の循環）			講義	
6	2	脊髄機能の構造と機能			講義	
7	2	脳神経の構造と機能・運動機能と下降伝導路			講義	
8	2	感覚機能・体性感覚と上行伝導路			講義	
9	2	眼の構造と視覚			講義	
10	2	耳の構造と聴覚・平衡感覚			講義	
11	2	味覚と嗅覚			講義	
12	2	痛み（分類と発生機序）			講義	
13	2	脳の統合機能（脳の活動測定と脳のリズム・記憶）			講義	
14	2	本能行動と情動行動			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院				
備 考		各章ごとに確認のための小テストを行います。（成績評価の対象ではありません）				

科目名		生化学		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		水口 博之			前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				医学博士		
授業概要		私達のからだはどのような物質から成り立っているのか、それらがどのように食物から取り入れられ、作られ、分解され、調節されて生命を維持しているのかを学ぶ。生化学は病気を理解する上で重要な基礎となる知識である。				
科目目標		1. 生化学について理解できる 2. 化学の基礎知識を理解できる 3. 体内での代謝や疾患が理解できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	生化学とはどういう学問か 化学の基礎知識。細胞の構造と機能			講義	水口
2	2	糖質・脂質			講義	
3	2	アミノ酸とタンパク質・酵素			講義	
4	2	核酸・ヌクレオチドとその代謝、水と無機質			講義	
5	2	生命エネルギー			講義	
6	2	糖質代謝			講義	
7	2	ビタミン			講義	
8	2	脂質代謝			講義	
9	2	タンパク質とアミノ酸の代謝・ポルフィリンの代謝			講義	
10	2	エネルギー代謝の統合と制御			講義	
11	2	核酸代謝・遺伝情報			講義	
12	2	先天性代謝異常			講義	
13	2	代謝異常と疾患（糖尿病・脂質代謝異常等）			講義	
14	2	総復習・生体学関連の国家試験問題解説			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院				
備 考						

科目名		栄養学		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員					前期	
実務経験		病院にて栄養士・管理栄養士に従事した経験のある講師が担当する		関連資格 栄養士・管理栄養士		
授業概要		食と健康とのかかわりの中で、栄養素の種類や体内での役割と代謝・1日の摂取量について学ぶ。また、食生活上の問題を考えることで、生活習慣病との関係を理解する。				
科目目標		1. 栄養学の基礎知識を理解できる 2. 消化・吸収が理解できる 3. 各疾患の食事療法が理解できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	臨床栄養学の基礎知識 人間の栄養学と看護、健康づくりと食生活			講義	
2	2	栄養素の種類とはたらき			講義	
3	2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			講義	
4	2	エネルギー代謝			講義	
5	2	食事と食品			講義	
6	2	栄養ケア・マネジメント			講義	
7	2	栄養アセスメント（栄養状態の評価）			講義	
8	2	ライフステージと栄養			講義	
9	2	病院食と栄養補給法			講義	
10	2	循環器疾患の食事療法			講義	
11	2	消化器系疾患の食事療法			講義	
12	2	代謝疾患の食事療法			講義	
13	2	腎疾患の食事療法			講義	
14	2	その他の食事療法			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法				
備 考		「栄養」は身体の変化や病気などと密接に関係しています。様々な視点から食事・栄養の事を学んでいくと理解がより深まり、臨床現場で役立つものになると思います。必要な知識を楽しく習得してきましょう。				

科目名		薬理学			科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		水口 博之				前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格 医学博士		
授業概要		薬物の生体に対する作用を理解し、疾病の薬物療法の基本を学びます。					
科目目標		1. 薬理や医療の歴史を理解することができる 2. 各器官に作用する薬物を理解することができる 3. 疾患に対する薬物を理解することができる					
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員
1	2	薬理・医療の歴史 薬が作用するしくみ				講義	水口
2	2	教科書第5章：末梢での神経活動に作用する薬物				講義	
3	2	教科書第1章：自立神経を刺激、遮断する薬物、薬理学総論				講義	
4	2	薬物の体内動態、薬と法律、投与量の計算				講義	
5	2	教科書第6章：中枢神経に作用する薬物				講義	
6	2	抗精神病薬（統合失調症・うつ病）				講義	
7	2	血液に作用する薬物、体液の調整および腎臓				講義	
8	2	教科書第7章：心臓・血管系に作用する薬物				講義	
9	2	心不全、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞等）				講義	
10	2	教科書第4章：炎症と抗炎症薬				講義	
11	2	教科書第3章：免疫・抗感染症薬				講義	
12	2	教科書第2章：抗がん薬、がん性疼痛に使用する薬物				講義	
13	2	代謝異常（糖尿病、脂質異常症、痛風などの生活習慣病治療薬）				講義	
14	2	消化器、内分泌系等に作用する薬物				講義	
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院					
備 考		生体の機能から解らなければ、薬物の作用を理解することは不可能。解剖生理学をよく学んでください。					

科目名		微生物学		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		金子 幸弘 柴多 渉			前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				医師		
授業概要		微生物は多種多様で、病原微生物はさまざまな感染症を引き起こします。微生物の特徴や性質を知ること、感染症発症のしくみや、治療・感染予防などについての理解が深まります。ウイルス・細菌・真菌・寄生虫の違いを理解し、それらによって引き起こされる感染症と、院内感染防止・患者への対応・ワクチンなど感染看護に関する基本的事項についても学びましょう。また、人類と感染症の歴史と世界にも目を向け感染症の現状と対策や問題点についても学習します。				
科目目標		1. 病原微生物（ウイルス・細菌・真菌・寄生虫）の特性、違いを理解する 2. 生体の感染防御機構や感染経路から感染症について理解する 3. 様々な感染症の予防・治療・院内感染対策についての基本的知識を習得する 4. 感染症関連法規と世界における感染症の現状と課題について知る				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	微生物学総論			講義	金子
2	2	細菌学各論（グラム陽性球菌、グラム陰性球菌）			講義	
3	2	細菌学各論（緑膿菌～ボルデテラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア）			講義	
4	2	細菌学各論（ヘモフィルス、スピロヘータ）			講義	
5	2	ウイルス学			講義	
6	2	真菌、寄生虫			講義	
7	2	感染症総論（生体防御、検査、治療、予防、ワクチン）			講義	
8	2	感染症総論（呼吸器感染症、中枢神経感染症、菌血症、敗血症）			講義	
9	2	感染症総論（性感染症、尿路感染症、動物由来感染症、その他）			講義	
10	2	感染症総論（薬剤耐性菌、感染対策、感染症法）			講義	
11	2	臨床への応用（感染症の診断・感染対策）			講義	柴多
12	2	臨床への応用（感染症の治療）			講義	
13	2	看護師国家試験と微生物学・感染症学① 感染症総まとめ・高齢者の感染症・日和見感染・AMRの歴史			講義	
14	2	看護師国家試験と微生物学・感染症学② 感染症総まとめ			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院				
備 考						

科目名		病態生理学総論			科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		15 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		柴多 渉				前期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格		
					医師		
授業概要		医療現場においては、適切な看護臨床判断能力と科学的根拠に基づく看護実践能力が求められます。この授業では、身体の正常な機能と、破綻した場合に引き起こされる病状や疾病とその治療について学習します。病態生理を理解することで、様々な症候を呈する対象の現在の状態や原因がわかり、今後のなりゆきをイメージすることができます。主要な疾患、臨床で多く遭遇する疾患の理解を深めていきます。					
科目目標		1. 身体の正常な機能と、破綻した場合の症候についての知識を得ることができる 2. 主要な疾患の成り立ちと治療を理解することができる 3. 疾患を系統的に学習し、必要な看護ケアを関連づけて考えることができる 4. 看護臨床判断に必要な病態生理の知識を得ることができる					
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員
1	2	病態生理学とは 基礎知識・各種症候				講義	柴多
2	2	循環のしくみと病態生理				講義	
3	2	呼吸のしくみと病態生理				講義	
4	2	消化・吸収のしくみと病態生理				講義	
5	2	腎・泌尿器のしくみと病態生理				講義	
6	2	内分泌・代謝のしくみと病態生理 炎症・免疫・アレルギー				講義	
7	2	脳・神経・筋肉のしくみと病態生理 老化・認知症				講義	
8	1	終講試験					
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院					
備 考		生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できません。解剖・生理学をよく勉強しておいてください。					

科目名		病態生理学Ⅰ (呼吸器・循環器・血液・腎泌尿器)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		4 5 (2)		開講時期	1 年次	
担当教員		宮野 章 大垣 孝雄 甲斐 俊朗 小畑 俊男			前期・後期	
実務経験		医療研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師と、臨床検査技師として従事する講師が担当する		関連資格 医師・医学博士・薬剤師・薬学博士・臨床検査技師		
授業概要		人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤として治療・看護が成り立っている。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。また、呼吸機能、循環機能、造血機能、腎機能の正常な構造と機能を理解し、その機能障害をもたらす疾患の病態、症状、検査、治療、機能障害の基礎知識を習得する。				
科目目標		1. 呼吸機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 2. 循環機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 3. 造血にかかわる諸機能の障害で特有な疾患の原因とその変化について説明できる 4. 腎機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	呼吸器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 症 状：咳嗽、喀痰、血痰・吐血、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ、ばち指、発熱、呼吸の異常 主 要 疾 患：慢性閉塞性肺疾患、肺がん、肺結核、肺炎、気管支喘息、自然気胸、呼吸不全、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群 検 査・治：診察と診断の流れ、血液検査、喀痰検査、生検、呼吸機能 鼻咽喉ぬぐい液検査 吸入法、酸素療法、人工呼吸療法			講義	宮野
2	2				講義	
3	2				講義	
4	2				講義	
5	2				講義	
6	2				講義	
7	2	循環器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 症 状：胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神 四肢の疼痛、ショック 主 要 疾 患：心筋梗塞、狭心症、心不全、血圧異常（高血圧・低血圧） 不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋症、肺性心、動脈系疾患、静脈系疾患 検 査・治：診察と診断の流れ、心電図、胸部X線検査、脈派検査 心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、心臓核医学検査 コンピューター断層撮影、磁気共鳴画像法 薬物療法、経皮的冠動脈インターベンション、 ペースメーカー治療、冠動脈バイパス術、大血管再建術 弁膜症に対する手術、補助循環装置			講義	大垣
8	2				講義	
9	2				講義	
10	2				講義	
11	2				講義	
12	2				講義	
13	2				講義	

14	2	血液・造血系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置	講義	甲斐
15	2	主 要 症 状：貧血、発熱、リンパ節腫脹、脾腫、出血傾向、血栓傾向 主 要 疾 患：リンパ系疾患、赤血球系の異常（貧血各種）、白血球系の異常	講義	
16	2	：造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫） ：出血性疾患（血管異常、血小板異常、凝固異常、DIC）	講義	
17	2	腎泌尿器 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置	講義	小畑
18	2	主 要 症 状：尿の異常、色調の異常と混濁、尿比重・尿浸透圧の異常、 尿のpHの異常、タンパク尿、尿糖、畜尿症状、脱水、 尿毒症、浮腫、循環器系の異常、血液の異常	講義	
19	2	主 要 疾 患：膀胱炎、腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群、 糸球体腎炎、水腎症、前立腺肥大症、尿路結石、 尿路・性器の腫瘍（腎癌・前立腺癌）、男性生殖器疾患	講義	
20	2	検 査 ・ 治：尿の検査、分泌物検査、腎機能検査、画像検査、 経尿道的操作および内視鏡検査、尿流動検査、生検性、 生殖機能の検査、手術療法、透析治療、腎移植	講義	
21	2		講義	
22	2		講義	
23	1	終講試験		
成績の評価方法		筆記試験：100点	認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 医学書院		
備 考		生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。		

科目名		病態生理学Ⅱ (消化器・内分泌・代謝・免疫)		科目区分	専門基礎分野
授業時数 (単位数)		30(1)		開講時期	1年次
担当教員		赤神 正敏 橋田 裕毅	矢田 豊 柴多 渉		宮崎 純一
実務経験		医療研究機関において講義関連分野の研究や、医師・薬学博士・臨床検査技師として従事する講師が担当する		関連資格	
				医師	
授業概要		人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤として治療・看護が成り立っている。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。また、消化機能、内分泌・代謝機能、免疫機能の正常な構造と機能を理解し、その機能障害をもたらす疾患の病態、症状、検査、治療、機能障害の基礎知識を習得する。			
科目目標		1. 消化機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 2. 内分泌・代謝機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 3. 免疫機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	消化器疾患 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置		講義	赤神
2	2	主 要 症 状：嚥下困難、おくび、胸やけ、吐き気、嘔吐、腹痛、 吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振と体重減少 腹水、黄疸、肝性脳症 主 要 疾 患：胃潰瘍、十二指腸炎、胆嚢炎、胆管炎、胆石症、膵炎 脂肪肝、肝硬変、肝炎、食道癌、胃癌、膵臓癌、肝癌 小腸癌、大腸癌		講義	矢田
3	2			講義	
4	2			講義	
5	2	検 査・治 療：視診、聴診、打診、触診、直腸真、食道内圧測定検査 糞便検査、肝機能検査、膵外分泌機能検査、超音波検査 内視鏡検査、肝生検、放射線検査、薬物療法、手術療法 栄養療法、食事療法		講義	橋田
6	2			講義	
7	2	【内分泌代謝疾患総論】 内分泌系の全体像/ホルモンの働き/ホルモン分泌の調節メカニズム（ネガティブ・フィードバック機構）/内分泌代謝疾患の分類/機能亢進症（ホルモンの過剰）と機能低下症（ホルモンの不足）/ 主要な症状と身体所見・局所症状から疾患を推測する思考プロセス/専門医の視点・看護への応用		講義	柴多
8	2	【視床下部・下垂体疾患・甲状腺・副甲状腺疾患】 ①視床下部・下垂体疾患:先端巨大症/プロラクチノーマ/尿崩症/SIADH/下垂体腫瘍 ②甲状腺疾患:バセドウ病/橋本病（慢性甲状腺炎）/粘液性腫/甲状腺腫瘍 ③副甲状腺疾患とカルシウム代謝		講義	
9	2	【副腎疾患/脂質・その他の代謝疾患】 クッシング症候群/アジソン病/原発性アルドステロン症/褐色細胞腫 脂質異常症と高尿酸血症		講義	
10	2	【糖代謝異常(糖尿病とその合併症)】 糖尿病の病態と分類/合併症/治療とセルフケア		講義	
11	2	【骨代謝異常/肥満症/内分泌代謝救急】 ①骨代謝異常:骨粗鬆症 ②肥満症とメタボリックシンドローム ③内分泌代謝救急（エマージェンシー）		講義	
12	2	【免疫系の異常（メカニズム）と主要な全身症状・局所症状】 免疫系の基本システム/自然免疫と獲得免疫/抗原と抗体の役割/サイトカインの働きと炎症反応 アレルギーの分類/自己免疫疾患（膠原病）/免疫不全症:免疫機能の低下（先天性と後天性・薬剤性）/主要な症状と身体所見の捉え方/看護への応用		講義	
13	2	【代表的なアレルギー疾患・免疫不全症と治療および管理】 気管支喘息/食物アレルギー/アレルギー性鼻炎/アトピー性皮膚炎/アナフィラキシーショック 免疫不全症と日和見感染症 他		講義	
14	2	【膠原病（自己免疫疾患）】 関節リウマチ（RA）/全身性エリテマトーデス（SLE）/強皮症/多発性筋炎/皮膚筋炎（PM/DM）、 シェーグレン症候群/膠原病の治療薬と副作用マネジメント/免疫抑制薬と生物学的製剤/ 治療のパラダイムシフト		講義	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			
備 考		生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。			

科目名		病態生理学Ⅲ (脳神経・運動・感覚器)		科目区分	専門基礎分野		
授業時数 (単位数)		3 0 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		山本 和己 寺田 栄作 忽那 晴央	矢野 喜寛 日高 典昭 小畑 俊男	佐々木 学 岡本 崇		西 麻哉 金 光成	前期・後期
実務経験		医療研究機関において講義関連分野の研究や、医師として従事する講師が担当する				関連資格 医師・医学博士	
授業概要		人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤として治療・看護が成り立っている。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。また、脳神経機能、運動機能、感覚機能の正常な構造と機能を理解し、その機能障害をもたらす疾患の病態、症状、検査、治療、機能障害の基礎知識を習得する。					
科目目標		1. 脳神経機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 2. 運動機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 3. 感覚機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる					
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員	
1	2	認知症の医学的理解 認知症の評価 主症状、周辺症状			講義	山本和	
2	2	各タイプの認知症 診断と治療 治療可能な認知症			講義		
3	2	<脳神経>各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 症 状：意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害 自律性のある機能の障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜刺激症状、頭痛、めまい			講義	矢野	
4	2	主 要 疾 患：クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳腫瘍、脳虚血発作 パーキンソン病、筋ジストロフィー、脳炎、髄膜炎 神経学的検査、画像診断、電気生理学的検査、脳髄液検査 内科的治療、外科的治療、放射線治療			講義	佐々木	
5	2				講義	西	
6	2				講義	寺田	
7	2	<運動器系>各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 症 状：疼痛、形態の異常、関節運動の異常、神経の障害、跛行、筋肉の異常 主 要 疾 患：大腿骨頸部骨折、圧迫骨折、肩関節脱臼、膝関節脱臼、捻挫 打撲、骨・関節の炎症性疾患、脊椎損傷、変形性膝関節症 脊柱管狭窄症、骨腫瘍			講義	日高	
8	2				講義		
9	2	検査・治療：問診、視診、神経診察、画像検査、電気生理学的検査 関節鏡検査、関節液検査、生検、保存療法、手術療法 理学療法と作業療法、義歯と装具			講義	岡本	
10	2				講義	金	
11	2				講義		
12	2	<感覚器系>各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 症 状：視力・視野・色覚異常、複視、飛蚊症、充血、眼脂、異物感 難聴、耳鳴り、めまい、耳漏、原発疹、続発疹、かゆみ 主 要 疾 患：眼疾患（結膜炎、白内障、緑内障、網膜症） 耳鼻咽喉科疾患（メニエール病、難聴、副鼻腔炎） 皮膚疾患（熱傷、紅斑症、水疱症、皮膚癌）			講義	小畑	
13	2				講義		
14	2				講義	忽那	
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 皮膚 医学書院					
備 考		生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。					

科目名		病態生理学Ⅳ (小児・精神・女性生殖器)		科目区分	専門基礎分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次
担当教員		松村 治雄	田村 悠早		前期・後期
実務経験		医療研究機関において講義関連分野の研究や、医師、看護師として従事する講師が担当する		関連資格	
				医学博士・看護師	
授業概要		人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤として治療・看護が成り立っている。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を系統的に学ぶ。また、女性生殖機能、小児に特有な疾患、精神疾患におけるの各器官の正常な構造と機能を理解し、その機能障害をもたらす疾患の病態、症状、検査、治療、機能障害の基礎知識を習得する。			
科目目標		1. 小児に特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 2. 精神で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる 3. 女性生殖機能障害で特有な疾患の原因とその変化について説明することができる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	小児 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 主 要 疾：肺炎、気管支炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 その他感染症各種、気管支喘息、アレルギー、急性胃腸炎 腸炎、腸重積、先天性心疾患、川崎病、Ⅰ型糖尿病、 突発性血小板減少紫班病、白血病、悪性腫瘍、発達障害		講義	松村
2	2			講義	
3	2			講義	
4	2			講義	
5	2	精神 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療、処置 精 神 科 疾 患 の 現 れ 精神をやむことと生きること 精神症状論と状態像 主 要 症：思考の障害、感情の障害、意欲の障害、知覚の障害 意識の障害、記憶の障害、局在症状 主 要 疾：気分障害、統合失調症、依存症、心的外傷後ストレス障害、認知症 治 療・治：精神療法、集団精神療法、薬物療法、電気けいれん療法		講義	田村
6	2			講義	
7	2			講義	
8	2			講義	
9	2			講義	
10	2	女性生殖器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療、処置 主 要 症：ショック、出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満・腫瘤感 外陰部掻痒感、排尿障害、自律神経症状、不定愁訴、リンパ浮腫 主 要 疾：子宮・卵巣の腫瘍、更年期障害、月経異常、不妊症、骨盤臓器脱 治 療・治：診察・治療器具、理学的検査、病理検査、 細菌・ウイルス・原虫検査、画像検査、腫瘍マーカー検査 妊娠検査、内視鏡検査、染色体検査、遺伝子検査、手術		講義	松村
11	2			講義 DVD	
12	2			講義	
13	2			講義	
14	2			講義	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 医学書院			
備 考		生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。			

科目名		総合医療論			科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)			開講時期	1 年次	
担当教員		柴多 渉				前期・後期	
実務経験		大学において講師経験があり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する			関連資格		
					医師		
授業概要		医療の専門職業人として看護を実践するための基礎知識を総合的に学習します。臨床でよく遭遇する疾患から医療全体を見渡し、医学の歴史から現代の医療・福祉・社会保障システムまで、幅広く学んでほしいと思います。生命を尊び死を悼む、常に患者に寄り添い、病気に向き合う高い倫理観を養ってください。健康と病に関する十分な知識を得るために、先端医療やEBN・世界が直面する課題なども盛り込んでいます。					
科目目標		1. 臨床で多く遭遇する疾患の成り立ちと症候、治療について理解することができる 2. 看護実践に必要な健康と病に関する基礎的知識を得ることができる 3. 現代の医学・医療・看護の全体像を把握することができる 4. 主要な疾患から健康について考え、人間観・死生観を深める					
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員
1	2	皮膚のしくみと体温調節 人間の恒常性維持				講義	柴多
2	2	免疫のしくみとグローバル化時代の感染症				講義	
3	2	体温調節と生命維持 one Healthの視点（世界の水）と健康維持（体の水）				講義	
4	2	血液のはたらき 血液のとらえ方と医療の歴史、健康への影響				講義	
5	2	生命の神秘 生殖のしくみと病態生理				講義	
6	2	感覚器と健康の関係について 五感と自然治癒力のつながり（心身の健康保持について）				講義	
7	2	前半のまとめ				講義	
8	2	医療と看護の視点（病と癒し） 医療の歩みと医療観の変遷				講義	
9	2	私たちの生活と健康 科学技術の進歩				講義	
10	2	現代医療の最前線 現代医療の新たな課題				講義	
11	2	保健・医療・福祉の潮流 多職種連携の歴史				講義	
12	2	多職種連携の要素 多職種連携を支える職種				講義	
13	2	多職種連携実践のための各専門分野の能力 ケアの実践から学ぶ多職種連携				講義	
14	2	ケアの実践から学ぶ多職種の課題 多職種連携の実践				講義	
15	2	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：100点			認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院					
備 考		医療従事者に求められる倫理性や社会的使命を習得するために、『国民衛生の動向』（厚生労働省統計協会）の読書を勧める。また、社会について理解を深める。					

科目名		看護学概論Ⅰ		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30(1)		開講時期	1年次	
担当教員		田中 奈絵子			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格 看護師		
授業概要		看護の基本概念、本質、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性をその発展過程を踏まえて理解し、看護の機能・構造を学ぶ。また、ナイチンゲールの功績や看護理論をしっかりと学びましょう。				
科目目標		1. 看護の歴史と概念を理解することができる 2. 看護の理論家を理解することができる 3. 看護・人間を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	看護のとらえ方 看護とは、看護のとらえ方の変遷、看護理論家がとらえた看護の本質			講義	田中
2	2	職能団体が定義する看護、看護師・准看護師の役割			講義	
3	2	看護の変遷（看護史） 看護史を学ぶ意味、古代文明の発祥と医療・看護の形成			講義	
4	2	中世から近代にかけての看護のあゆみ、日本の看護の変遷、現在の看護と課題			講義	
5	2	対象の理解 生活者としての存在、成長・発達する存在、統合体としての存在 患者と看護師の関係			講義	
6	2	患者心理の理解とその必要性 病気行動、病期の種類と心理、ライフサイクルからみる患者の心理 治療を受ける患者の心理、療養の場からみた患者の心理			講義	
7	2	健康の概念 健康という考え方、健康の定義、健康のレベルとニーズ			講義	
8	2	看護活動 病院における看護活動、地域における看護活動、在宅における看護活動 災害時の看護活動、国際看護活動			講義	
9	2	病院組織と看護体制 看護提供システム（病院や看護部などの組織体系）、看護体制と看護方式			講義	
10	2	医療安全と看護 なぜ医療安全を学ぶのか、医療安全の動向、医療安全に関する基礎知識 事故発生のメカニズムとその対策、医療安全における感染対策			講義	
11	2	職業と看護 職業と看護職、看護職の役割と看護業務 専門職としての看護師、看護職としての国際協力			講義	
12	2	健康を守る保健医療福祉のしくみと看護 保健医療福祉のしくみ、保健医療福祉施設の種類と役割 地域における多職種連携、保健医療福祉対策			講義	
13	2	看護職に求められる倫理 看護職にとっての倫理、看護の場における倫理 看護におけるケアの倫理と倫理原則、現代医療の場で求められる看護師の倫理			講義	
14	2	看護の場で生じやすい倫理上の問題とその対応 倫理上の問題が生じやすい背景			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1 医学書院				
備 考						

科目名		基礎看護学方法論Ⅰ (ヒューマンケアの基本技術)		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次
担当教員		本村 美穂			前期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格 看護師	
授業概要		コミュニケーションは、看護実践における信頼関係構築の基盤です。本科目では、良好な人間関係を形成するために必要なコミュニケーションの基本的な概念や態度、さらに観察・傾聴・応答などの基本技法について学びます。加えて、看護専門職として求められる患者・家族・多職種と効果的に関わるためのコミュニケーション能力を身につけることを目指します。			
科目目標		1. 看護技術とはなにか、技術の特徴について理解する 2. 人間関係を構築するために基本的コミュニケーション技術について理解する 3. 看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチ方法を学習する			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	看護技術とは、看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、看護義技術の発展と習得のために		講義	本村
2	2	コミュニケーションの意義と目的		講義	
3	2	コミュニケーションの構成要素と成立過程		講義	
4	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本①		講義	
5	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本②		講義	
6	2	効果的なコミュニケーションの実際 傾聴の技術		講義	
7	2	効果的なコミュニケーションの実際 情報収集の技術		講義	
8	2	効果的なコミュニケーションの実際 説明の技術、アサーティブネス		講義	
9	2	コミュニケーション障害への対応、オンラインコミュニケーション		講義	
10	2	対人関係の振り返り プロセスレコード		講義	
11	2	対人関係の振り返り ロールプレイ、リフレクション		講義	
12	2	看護と人間尊重		講義	
13	2	看護における教育的支援		講義	
14	2	カウンセリング		講義	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② メディカ出版			
備 考					

科目名		基礎看護学方法論Ⅱー 1 (環境・活動・休息)		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1年次
担当教員		中田 恵美			前期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格	
				看護師	
授業概要		看護の対象者にとっての安全で安楽、快適な生活環境を整えるための知識と援助方法を学ぶ。看護の対象者にとっての活動や休息の意義を理解し援助の方法を学ぶ。			
科目目標		1. 健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法がわかる 2. 環境整備ができる 3. 姿勢と体位の基礎知識が理解でき、活用することができる 4. 安楽の意義と苦痛の緩和が理解することができる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	健康生活における環境の意義と条件 療養生活における環境の構成因子と調整方法		講義	中田
2	2	病室の環境整備		講義	
3	4	ベッドメイキング・オープンベッド・クローズドベッド		演習	
4		環境整備			
5	2	姿勢と体位の種類と基礎知識（廃用性症候群、自動・他動運動） ボディメカニクスの意義と目的・活用 移動の基礎知識		講義	
6	2	体位変換と体位保持		講義	
7	4	体位変換と体位保持（ポジショニング）		演習	
8		臥床患者のシーツ交換			
9	2	移動・移乗・移送の基礎知識 歩行の介助・移乗・移送の実際		講義	
10	4	移乗（ベッドから車いす・ベッドからストレッチャー）		演習	
11		移動（歩行介助、杖歩行） 移送（車椅子・ストレッチャー）			
12	4	睡眠・休息の基礎知識・アセスメント		講義	
13		安楽の意義と看護技術の基礎知識 褥法（湯たんぽ・氷枕・氷嚢） 苦痛緩和（リラクゼーション・マッサージ・タッチケア）		講義	
14	2	環境整備		技術試験	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：50点 技術試験：50点		認定基準	各試験：6割以上合計60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院			
備 考		実際の患者に対し、看護ケアを行うにあたって「正しい方法」を身につけることが大切です。必ず予習し、援助方法をイメージトレーニングする習慣をつけ、演習後は必ず振り返り、不十分なところはしっかり練習し、技術を習得しましょう。			

科目名		基礎看護学方法論Ⅱ－２ (清潔・衣生活)			科目区分	専門分野		
授業時数 (単位数)		３０（１）			開講時期	１年次		
担当教員		金丸 宏枝				前期・後期		
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する			関連資格			
					看護師			
授業概要		人は生きていく上で身体を清潔にし、身だしなみを整えるという清潔行動をとっている。これは「垢や汚れを落とし、皮膚を清潔にする」ことや、爽快感・満足感を得ることを目的としている。人が清潔や衣服を来て生活する意義、皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能、清潔援助の効果と全身への影響について学ぶ。清潔援助の実際では、対象者の状態に合わせた方法を根拠・留意点と併せて実施し、衣服を用いる意義や衣服気候、適切な病衣を選び、病衣・寝衣交換の実際を学ぶ。						
科目目標		１． 清潔援助の効果と全身への影響を理解することができる ２． 対象の状態に応じた各清潔援助の実際を理解し、基礎的技術を習得することができる ３． 病床での衣生活援助の実際を理解し、基礎的技術を習得することができる						
授業計画		授 業 内 容				授業形態	担当教員	
1	2	清潔援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造と機能 口腔内の構造と機能 清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 病床での衣生活の援助 援助の基礎知識 援助の実際 病衣の選びかた（和式寝衣・セパレート） 病衣・寝衣の交換				講義	金丸	
2	2	清潔援助の実際 入浴・シャワー浴 全身清拭						
3	4	全身清拭・寝衣交換				演習		
4								
5	2	清潔援助の実際 洗髪				講義		
6	4	洗髪（洗髪車・ケリーパッド）				演習		
7								
8	2	清潔援助の実際 手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄				講義		
9	2	清潔援助の実際 口腔ケア 整容				講義		
10	4	手浴・足浴・整容				演習		
11								
12	4	陰部洗浄				演習		
13								
14	2	全身清拭				技術試験		
15	2	終講試験／まとめ						
成績の評価方法		筆記試験：５０点 技術試験：５０点			認定基準	各試験：６割以上合計６０点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学３ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院						
備 考		演習への取り組み状況・終講試験により総合的に評価をします。						

科目名		基礎看護学方法論Ⅱ－３ (食事・排泄)		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		３０（１）		開講時期	１年次
担当教員		本村 美穂			前期・後期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格	
				看護師	
授業概要		食事と排泄は、生命を維持するための基本的な営みであると同時に、心身の安定や生活の質を大きく左右する重要な行為です。本科目では、食行動や嚥下、排泄の生理的メカニズムといった基礎知識を体系的に学び、対象者が持つ力を最大限に活かす視点を養います。演習では、尊厳とプライバシーを守りながら、安全で快適な食事・排泄を支援するための技術を身につけます。日常生活の中でこれらの時間が「その人らしさ」を支えるように、個別性に応じた援助のあり方を探求します。			
科目目標		1. 食事の意義とメカニズムを踏まえた栄養状態・食欲・摂取能力のアセスメントの方法が理解でき、安全かつその人らしさを尊重した食事援助技術が習得できる。 2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法が理解でき、プライバシーに配慮した安全で快適な排泄援助技術が習得できる。			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	人にとって「食べる（食事）」とは 食べるために必要な機能、摂食・嚥下のメカニズム		講義	本村
2	2	栄養状態、水分・電解質の体内バランスのアセスメント 摂取能力、食欲、摂食・嚥下能力、摂食行動のアセスメント		講義	
3	2	健康障害と食事（食事摂取法、自助具） 患者の「食べる」ことを支える援助方法（食事介助・口腔ケア）		講義	
4	2	患者の「食べる」ことを支える援助方法の実際（食事介助、口腔ケア）		演習	
5	2	非経口的栄養摂取 経管栄養法、中心静脈栄養法の基礎知識		講義	
6	2	人にとって「トイレに行く（排泄する）」とは 排泄のメカニズム		講義	
7	2	排泄（排尿・排便）のアセスメント		講義	
8	2	排泄を阻害する要因（排泄障害）とその援助（浣腸・摘便・導尿・ストマ）		講義	
9	2	「トイレに行く（排泄する）」ことを支える援助方法 ・使用器具 ・自然排尿・排便 ・感染予防		講義	
10	2	浣腸・摘便・導尿・ストマの援助（援助方法）		講義	
11	2	排泄援助の実際（便器・尿器の介助 [床上排泄]、おむつ交換）		演習	
12	2				
13	2	排泄援助の実際（導尿）		演習	
14	2	排泄援助の実際（ストマ）		演習	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：１００点	認定基準	筆記試験：６０点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学３ 医学書院 ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② メディカ出版 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 基礎・臨床看護技術 第4版 医学書院			
備 考		レポート課題あり			

科目名		基礎看護学方法論Ⅲ (ヘルスアセスメント)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		金丸 宏枝			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		看護の対象者の健康状態を判断するための基礎的知識・技術を学ぶ。フィジカルイグザミネーションによる、情報収集の方法を系統的に学び、得られた情報によりフィジカルアセスメントについて学び、対象の身体面だけでなく、心理・社会的状況にも視野に入れたヘルスアセスメントを学ぶ。				
科目目標		1. ヘルスアセスメントの意義・目的を理解することができる 2. バイタルサインの基礎的知識を習得することができる 3. バイタルサインを正確に測定することができる 4. フィジカルアセスメントに必要な知識と技術を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	ヘルスアセスメントの目的と意義			講義	金丸
2	2	バイタルサインの観察とアセスメント ・体温 ・脈拍			講義	
3	2	バイタルサインの観察とアセスメント ・呼吸 ・血圧			講義	
4	2	バイタルサインの観察とアセスメント ・意識 ・身体計測			講義	
5	4	バイタルサインの観察・測定と報告			演習	
6						
7	2	アセスメントの実際 呼吸			講義	
8	2	アセスメントの実際 循環器系			講義	
9	2	アセスメントの実際 中枢神経系 感覚器系			講義	
10	2	アセスメントの実際 運動器系 乳房・腋窩			講義	
11	2	アセスメントの実際 消化器系 心理・社会状態			講義	
12	4	身体計測、血圧測定・呼吸（回数・深さ・リズム）呼吸音聴取・心音聴取・腸蠕動音聴取・対光反射・浮腫の有無と程度観察 フィジカルアセスメント			演習	
13						
14	2	バイタルサイン測定			演習 技術試験	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：50点 技術試験：50点		認定基準	各試験：6割以上合計60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院				
備 考		演習への取り組み状況・終講試験により総合的に評価をします。				

科目名		基礎看護学方法論Ⅳ (呼吸・循環を整える技術)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		15 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		金丸 宏枝			後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		呼吸・循環を整える技術は看護でも重要である。呼吸・循環を整えるケアが必要な患者は、重篤である場合が多く、その状態は著しく変化していく。呼吸・循環だけでなく、人間の身体構造と機能も含めた統合的アセスメントと、異常を見逃さない観察力が必要となる。この授業では、呼吸・循環を整えるための基本的な知識と技術を学ぶ。				
科目目標		1. 呼吸・循環を整える技術の基礎知識を身に付け、観察点・留意点を理解することができる 2. 呼吸・循環を整える技術の必要物品、実施手順について理解することができる 3. 演習にて弾性ストッキングの装着、酸素療法の実施、口鼻腔吸引の実施ができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	気道管理とは 気道管理の基礎知識			講義	金丸
2	2	気道管理の援助の実際 排痰ケア			講義	
3	2	吸入 一次的吸引 (口鼻腔吸引 気管内吸引)			講義	
4	2	酸素療法 基礎知識 援助の実際 人工呼吸療法とは			講義	
5	2	体温管理の技術 末梢循環促進ケア 弾性ストッキングの装着の実際			講義 演習	
6	2	酸素療法、口鼻腔吸引・気管内吸引のデモンストレーション 酸素療法の実際			演習	
7	2	口鼻腔吸引の実際				
8	1	終講試験				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	6割以上合計60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院				
備 考		演習への取り組み状況・終講試験により総合的に評価をします。				

科目名		基礎看護学方法論Ⅴ (創傷管理・与薬・感染予防・安全)	科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)	開講時期	1 年次	
担当教員		本村 美穂		後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する	関連資格 看護師		
授業概要		安全は人間の基本的欲求の一つであり、医療を提供するうえで対象者の安全を守ることが不可欠である。本科目では、医療現場における感染予防および安全確保に関する基礎知識を学び、感染防止・事故防止のための基本的技術を身につけます。また、診療の補助に関わる援助として、診察・検査・与薬における看護師の役割を理解する。さらに、静脈血採血、包帯法、与薬技術について、根拠に基づいた方法で実施できるよう、視覚教材や模型を用いた演習を通して知識と技術を学んでいきます。			
科目目標		1. 感染予防の基礎的技術を習得することができる 2. 医療安全および確保の技術を理解する 3. 検査・処置の援助の実際を学び、静脈採血の基礎的技術を習得することができる 4. 与薬の基礎的知識と安全に実施するための与薬方法について学ぶことができる			
授業計画		授 業 内 容	授業形態	担当教員	
1	2	感染予防の基礎知識 感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション）	講義	本村	
2	2	衛生的手洗い、個人防護具の着脱	演習		
3	2	感染経路別予防策、洗浄・消毒・滅菌 感染防止の技術 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い 針刺し防止策 医療施設における感染管理	講義		
4	2	無菌操作(滅菌鑷子・滅菌ガーゼの取り扱い)	演習		
5	2	安全確保の技術 安全確保の基礎知識 誤薬防止 チューブ類の事故防止 患者誤認防止 転倒・転落防止 薬剤・放射線曝露の防止	講義		
6	2	症状・生体機能管理技術 症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査（血液検査・尿検査・便検査・喀痰検査） 診察・検査・処置における技術 診察の介助 検査・処置の介助（X線検査・コンピューター断層撮影〈CT〉）	講義		
7	2	診察・検査・処置における技術 検査・処置の介助（磁気共鳴画像〈MRI〉・超音波検査〈エコー検査〉 内視鏡検査・心電図検査・肺機能検査・核医学検査 穿刺〈胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺〉）	講義		
8	2	創傷管理の基礎知識 創傷処置 創傷管理技術 褥瘡予防 褥瘡処置の実際 包帯法【演習】	講義 演習		

9	2	与薬の技術 与薬の基礎知識 経口与薬・口腔内与薬 吸入	講義	本村
10	2	与薬の技術 点滴 点眼 経皮的与薬 直腸内与薬	講義	
11	2	与薬の技術 注射の基礎知識 注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）	講義	
12	2	与薬の技術 注射の実施法（静脈内注射・点滴静脈内注射・中心静脈カテーテル留置） 輸血の管理	講義	
13 14	4	静脈内採血 筋肉内注射	演習	
15	2	終講試験／まとめ		
成績の評価方法		筆記試験：100点	認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 基礎・臨床看護技術 第4版 医学書院		
備考		レポート課題あり		

科目名		基礎看護学方法論Ⅵ (看護診断)		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1年次
担当教員		松原 希実子			前期・後期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格	
				看護師	
授業概要		看護過程とは、健康上の障害や問題、人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにし、問題解決のプロセスと具体的な方法について考えることです。また、看護過程は対象の問題解決に向けた援助を提供するために重要であり、こんな看護をしたいという看護者一人ひとりがもつ思いを具現的に実践するための方法です。ここでは、看護過程の基本的な考え方、看護過程と看護理論の関係、具体的な展開方法を学びます。授業では「書き方」にこだわるのではなく「なぜそのように思考するのか」について理解することを意識して主体的に取り組んでください。			
科目目標		1. 看護過程の意義や目的が理解できる 2. 対象理解のための情報収集や情報の整理、根拠に基づいた分析ができる 3. 看護問題を関連図で統合し、全体像を把握とらえることができる 4. 看護問題の優先順位を決定し、問題解決のための目標が設定できる 5. 看護問題の解決や目標達成に向けて、分析に基づいた看護計画を立案できる 6. 看護実践における看護記録の意義と方法、倫理的配慮について理解できる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	看護とは何か、看護過程の5つの構成要素と関係性		講義	松原
2	2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 問題解決過程・クリティカルシンキング		講義	
3	2	情報収集、アセスメントとは（解釈・判断・推理・推論） 情報収集の目的・手段・種類・注意点		講義	
4	2	看護問題と看護診断、看護問題の優先順位		講義	
5	2	看護計画の立案、実施、評価		講義	
6	2	看護記録とは 看護記録の法的位置づけと規定と目的・記載・管理における留意点		講義	
7	2	事例を用いた看護過程の実際 情報収集		講義 グループワーク	
8	2	アセスメント		講義 グループワーク	
9	2	アセスメント		講義 グループワーク	
10	2	アセスメント		講義 グループワーク	
11	2	全体像の把握、関連図の作成		講義 グループワーク	
12	2	看護問題の明確化、看護計画の立案		講義 グループワーク	
13	2	看護計画の立案		講義 グループワーク	
14	2	看護計画の実施、評価 SOAPの書き方		講義 グループワーク	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：50点 看護過程記録用紙の提出にて評価：50点	認定基準	筆記試験：30点以上で合格 看護過程記録用紙：30点で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 これなら使える看護介入 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断			
備 考					

科目名		地域看護学概論		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		鎌田 みどり			後期	
実務経験		医療機関において看護師、訪問看護師として従事した経験のある講師 が担当する		関連資格		
				看護師・介護支援専門員		
授業概要		地域特性の中で様々な健康・保健ニーズを持った人々がその人らしく、地域で生活を送れるように支援することを 学びます。また、住み慣れた地域で安心して生活が送られるための継続看護・訪問看護の必要性、多職種連携によ る地域包括システムの理解を深めましょう。				
科目目標		1. 地域看護の概念と活動の概要を理解することができる 2. 地域看護が必要とされる社会背景が理解できる 3. 地域看護の対象を生活者として捉え、その特徴について理解することができる 4. 地域包括ケアシステムにおける現状・役割・機能を理解することができる 5. 地域看護にかかわる制度とその活用を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	人々の暮らしと地域・在宅			講義	鎌田
2	2	地域・在宅看護の変遷・特徴			講義	
3	2	地域・在宅看護の対象者			講義	
4	2	地域・在宅看護の実践の場と連携			講義	
5	2	地域・在宅看護に関わる法制度とその活用①			講義	
6	2	地域・在宅看護に関わる法制度とその活用②			講義	
7	2	地域・在宅看護に関わる法制度とその活用③			講義	
8	2	介護保険制度の地域・在宅看護マネジメント			講義	
9	4	社会資源見学・体験			見学 体験	
10						
11	2	地域包括ケアシステム①			個人ワーク	
12	2	地域包括ケアシステム②			個人ワーク	
13	2	地域包括ケアシステム発表			発表	
14	2	認知症サポーター養成講座 (地域包括支援センター)			招聘講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験・地域発表・見学レポートの合計：1 0 0 点		認定基準	6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院				
備 考						

科目名		成人看護学概論		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	1 年次
担当教員		松原 希実子			後期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格	
				看護師	
授業概要		成人期の成長発達、身体機能の特徴と成人の生活について学ぶ。また、健康上のニーズや健康問題を生活との関連から理解し、各健康レベルに応じた看護実践のあり方や、看護に必要な概念について学ぶ。			
科目目標		1. 成人の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる 2. 成人の生活の特徴と健康問題について理解できる 3. 成人保健の動向に関連した保健対策の現状と課題について理解できる 4. 成人看護に有効な理論と概念について理解できる 5. 様々な健康レベルにある対象の特徴を知り、健康レベルに応じた看護の特徴を理解できる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	成人期にある人の理解（身近な成人期にある人へのインタビューから） ライフサイクルにおける成人期		講義 グループワーク	松原
2	2	成人期にある人の理 成人期の成長・発達課題		講義	
3	2	成人期にある人の理解 成人各期の特徴と健康障害		グループワーク	
4	2				
5	2				
6	2	生活習慣・ワークライフバランスに関連する健康問題と対策		講義	
7	2	成人保健・健康の動向 保健・医療・福祉チームとの連携と協働、看護の役割について		講義	
8	2	成人への看護アプローチの基本（成人期に有用な概念） アンドラゴジー・エンパワメント・痛みの軌跡 危機理論・死の受容過程・自己効力感		グループワーク	
9	2				
10	2				
11	2	成人の健康レベルや状態に応じた看護 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護		講義	
12	2	成人の健康レベルや状態に応じた看護 慢性病とともに生きる人を支える看護		講義	
13	2	成人の健康レベルや状態に応じた看護 人生の最後のときを支える看護		講義	
14	2	緩和ケア病棟見学		講義	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：70点 インタビュー課題・レポート課題：30点	認定基準	筆記試験・インタビュー課題・ レポート課題の合計：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 医学書院 新体系看護学全書 成人看護学1 成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 南江堂 ナースングラフィカ 成人看護学1 成人看護学概論 メディカ出版			
備 考					

科目名		老年看護学概論	科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)	開講時期	1 年次	
担当教員		山田 直子		後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する	関連資格		
			看護師		
授業概要		高齢者の加齢現象を身体的・心理的・社会的側面から理解し、高齢者の健康生活の特徴を捉え、高齢者とその家族への看護実践の基礎的能力を養う。また現在の高齢者の生きてきた生活や社会的背景を知り、それに影響を受けていることを理解する。			
科目目標		1. 高齢者の特徴を生涯発達の視点から説明できる。 2. 高齢者の加齢現象を身体的・心理的・社会的側面から説明できる。 3. 高齢者を取り巻く社会的背景について述べられる。 4. 高齢者の健康生活の視点から老年看護の基本的考え方を説明できる。 5. 生活の場に応じて、家族を含めた多職種との連携による支援体制について説明できる。			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	老年看護学概論の概要		講義	山田
2	2	我が国の高齢化		講義	
3	2	老化概念の変遷		講義	
4	2	加齢による身体的変化 ・生体機能の変化、身体的特徴		講義	
5	2	高齢者のヘルスアセスメント①呼吸器系・循環器系		講義	
6	2	高齢者のヘルスアセスメント②神経系・運動器系		講義	
7	2	高齢者のヘルスアセスメント③消化器系・内分泌系・泌尿器系		講義	
8	2	高齢者のヘルスアセスメント④外皮系・感覚器系		講義	
9	2	心理学的視点から見た高齢者		講義	
10	2	老年期の発達課題		講義	
11	2	社会学的視点から見た高齢者		講義	
12	2	超高齢社会と社会保障		講義	
13	2	老年看護における基本的な考え方		講義	
14	2	高齢者の生活の場と看護の特徴		講義	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院			
備 考		本科目の単位修得は「老年看護方法論Ⅰ」「老年看護方法論Ⅱ」「成人老年看護学実習」の準備科目である。☒			

科目名		精神看護学概論		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	1 年次	
担当教員		田村 悠早	音綿 洸志		招聘講師	後期
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		本科目は、こころの健康のあり方、こころのしくみと働き、ストレスや危機がこころの健康に及ぼす影響と回復、ライフサイクルと現代社会が抱えるメンタルヘルスの問題について学ぶことをねらいとする。				
科目目標		1. こころの健康について理解できる 2. 精神保健活動と法制度の変遷から人権倫理を理解することができる 3. ライフサイクルにおける心の発達と危機について理解することができる 4. 現代社会が抱えるメンタルヘルスの問題について理解し考えることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	精神看護学の考え方（精神看護学とはなにか） こころの健康と不健康について（こころの健康とは・精神障がいとは）			講義	音綿
2	2	諸外国と日本における精神障害者の医療の歴史 精神保健医療福祉と法制度の変遷 精神科医療・看護の倫理的問題			講義	
3	2	こころのしくみと働き			講義	
4	2	こころの防衛機制について こころの成長・発達について			講義	
5	2	ストレスとこころの健康について こころの危機と危機介入について			講義	
6	2	家族とこころの健康 （家庭システム・DV・児童虐待） 暮らしの場（学校・職場）とこころの健康 （いじめ・引きこもり・不登校・ハラスメント）			講義	
7	2	現代社会におけるこころの問題① （自殺・自虐行為 等）			講義	
8	2	現代社会におけるこころの問題② （アルコール依存症・薬物依存症 等）			講義	
9	2	災害時のメンタルヘルスと看護 災害時派遣精神医療チーム（DPAT）の活動について			講義	田村
10	2	精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 （権利擁護・看護者の倫理）			講義	
11	2	地域包括政策の実際（精神障がい者当事者会・河内長野市社会福祉協議会 等）			招聘講義 講義	こころっと
12	2	精神障がいの医療・保健・福祉におけるチームアプローチと社会資源 地域包括政策看護			講義	田村
13	4	精神疾病・障がいを持つ人の生活の葛藤、人生、家族のサポートを理解する DVD「ビューティフル・マインド」（135分）を鑑賞して対象を理解する			講義 DVD鑑賞 レポート	
14						
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		試験：100点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院 DVD「ビューティフル・マインド」				
備 考						

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

2 年次

科目名		情報科学	科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		4 5 (2)	開講時期	2 年次	
担当教員		宮本 孝志 尾形 尚子		前期・後期	
実務経験		学校、大学にて講師経験あり、各種学部 の講義経験が豊富な講師が担 当する	関連資格		
			理学博士		
授業概要		情報科学はコンピューターの理論や利用方法を追求する学問である。コンピューターの構造と基本的操作を理解することで、看護情報の処理や判断に役立てる。また、その情報処理の知識を看護研究に活用する。			
科目目標		1. 看護情報科学を理解することができる 2. パソコンの基本操作を理解し、実践することができる 3. 情報倫理を理解することができる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	看護情報科学とタイピング		講義 演習	宮本
2	2	看護における情報とタイピング		講義 演習	
3	2	データー情報とタイピング		講義 演習	
4	2	情報リテラシー 情報倫理・マウス操作		講義 演習	
5	2	情報の検察		講義 演習	
6	2	コンピューター基本的操作方法 パソコンの基本的な知識と操作		講義 演習	
7	2	ワードの概要と基本的な操作 文字装飾・テキストボックス・ワードアート・クリップアート		講義 演習	
8	2	エクセルの概要と基本的な操作 九九の表作成と成績作成と偏差値の計算		講義 演習	
9	2	エクセルの関数利用とピボットテーブル		講義 演習	
10	2	簡単なデーター処理とピボットテーブル		講義 演習	
11	2	パワーポイントの概要と基本操作 文字の装飾・図形・グラフ・あみだくじ		講義 演習	
12	2	パワーポイントを用いたプレゼンテーションの概要		講義 演習	
13	2	質的データ 量的データ		演習	
		／中間試験		中間試験	

14	2	統計処理 要約統計量 図示法、集団を表す代表的な数値（平均、分散、標準偏差等）	講義 演習	尾形	
15	2	母集団と標本の概念、正規分布などの確率分布	講義 演習		
16	2	区間推定の基本	講義 演習		
17	2	検定に必要な概念（帰無仮説、対立仮説、有意水準等）	講義 演習		
18	2	平均値の検定、カイ 2 乗検定（分割表の独立性、適合度の検定等）	講義 演習		
19	4	エクセルと利用した演習	講義 演習		
20		度数分布表、ヒストグラムの作成、平均、分布、標準偏差、指定			
21	2	エクセルを利用する クロス表（独立性）、度数分布表	講義 演習		
22	2	情報倫理	講義 演習		
23	1	終講試験			
成績の評価方法		筆記試験：100点	認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院			
備 考		パソコンは非常に便利な「道具」です。いろいろな使い方を学んで、総合的に活用できる能力を身につけてください。			

科目名		教育学		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員					前期	
実務経験		大学にて講師経験あり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
授業概要		教育学の基礎や本質を学ぶとともに、看護における教育活動に応用できる能力を養います。授業は、講義だけでなくワークショップ的な要素を交えながら学んでいきます。				
科目目標		1. 教育学の基本を理解することができる 2. グリーフケアの基礎を理解することができる 3. 看護におけるカウンセリング技法を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	教育学とは（プリントNO,1） オリエンテーション・看護と教育学			講義	
2	2	教育学とは・ケアと人間形成（プリントNO,1） 特別なニーズを持つ人へのサポート（プリントNO,2）			講義	
3	2	特別なニーズを持つ人へのサポートについて（プリントNO,2）			講義	
4	2	特別なニーズを持つ人へのサポートについて（プリントNO,2）			講義	
5	2	特別なニーズを持つ人へのサポートについて（プリントNO,2）			講義	
6	2	グリーフケアの理論と現状 家族・遺族へのグリーフケア（プリントNO,3）			講義	
7	2	グリーフケアの理論と現状 家族・遺族へのグリーフケア（プリントNO,3）			講義	
8	2	グリーフケアのポイント 家族・遺族・障がい者へのグリーフケア（プリントNO,4）			講義	
9	2	看護師のためのグリーフケア（プリントNO,4）			講義	
10	2	カウンセリングとは（プリントNO,4・5）			講義	
11	2	看護の現場で活かせるカウンセリングマインド（プリントNO,5）			講義	
12	2	対話的関係の検討表（プリントNO,5）			講義	
13	2	カウンセリングの技法（プリントNO,5） 試験対策			講義	
14	2	カウンセリングの技法（プリントNO,5）			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		教科書は使用せず、資料を配布します				
備 考						

科目名		人間関係論		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		4 5 (2)		開講時期	2 年次	
担当教員		中川 万喜子			前期	
実務経験		大学にて講師経験あり、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格 認定心理士		
授業概要		人間関係論は、社会心理学的な観点から人間の個人および集団関係における関係性を研究する。人間関係の基礎知識やスキル、カウンセリングを学ぶことで、看護にふさわしい人間関係について理解する。				
科目目標		1. 人間関係の基礎を理解することができる 2. 自己を知り他者を考えることができる 3. コミュニケーションの基礎を理解することができる 4. 医療チームとの人間関係を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	はじめに・人間関係の中の自己 人間存在と人間関係			講義	中川
2	2	自分を知る 20の私・対人関係性尺度			講義	
3	2	自分を知る エゴグラム・ピクトグラム			講義	
4	2	看護職と自分の特性			講義	
5	2	出会いからの人間関係の展開			講義	
6	2	好きと嫌いの人間関係			講義	
7	2	援助の人間関係			講義	
8	2	支配と服従 攻撃と対立の人間関係			講義	
9	2	集団のなかの人間関係			講義	
10	2	態度と説得的コミュニケーション			講義	
11	2	前半のまとめ			講義	
12	2	中間試験／まとめ			講義	
13	2	コミュニケーション			講義	
14	2	コミュニケーション アサーティブコミュニケーション（事例研究）			講義	
15	2	心理療法			講義	

16	2	コーチング	講義	中川
17	2	面接の技法	講義	
18	2	保健医療チームの人間関係	講義	
19	2	看護師の心理とストレス	講義	
20	2	患者を支える人間関係	講義	
21	2	家族を含めた人間関係	講義	
22	2	後半のまとめ	講義	
23	1	終講試験		
成績の評価方法	筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等	教科書は使用せず、資料を配布します。			
備考				

科目名		医療英語		科目区分	基礎分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		Adrian Webber			前期	
実務経験		学校・短期大学にて講師経験あり、各種学部の講師経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
授業概要		これからは、グローバルな時代であり他国の患者に対応することが多くなる。この授業では、「外国の人とのコミュニケーション方法の習得」という大きな枠組みでとらえ、英語だけではなく、やさしい日本語について考える。また、これらの学習を通して日本や諸外国の医療環境や社会・文化について関心を持つ姿勢を養う。				
科目目標		1. 基本的な英語を理解することができる 2. 医療における英語を理解することができる 3. 理解した英語でコミュニケーションを図ることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	Unit 1 : Can you please speak more slowly?			講義	Webber
2	2	Unit 2 : Where are you from?			講義	
3	2	Unit 3 : Could you tell me your address, please?			講義	
4	2	Unit 4 : What department do you want to visit?			講義	
5	2	Unit 5 : Where is the X-ray department?			講義	
6	2	Unit 6 : What are your symptoms?			講義	
7	2	Unit 6 : What are your symptoms?			講義	
8	2	Unit 7 : Where does it hurt?			講義	
9	2	Unit 7 : Where does it hurt?			講義	
10	2	Unit 8 : Have you ever had any serious illnesses?			講義	
11	2	Unit 9 : Take one tablet, four times a day.			講義	
12	2	Unit 10 : Let me make an appointment for your test.			講義	
13	2	Unit 11 : Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.			講義	
14	2	Unit 12 : How are you feeling today?			講義	
15	2	review learning /Final Test				
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		クリスティーンのやさしい看護英会話 新訂版 知念クリスティーン／上瀧 真紀恵 医学書院				
備 考		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に授業に参加してください。				

科目名		スポーツ科学Ⅱ		科目区分	基礎分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次
担当教員		山本 隆宣			

科目名		病態生理診断学		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		鈴木 啓太郎			後期	
実務経験		講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				臨床検査技師		
授業概要		診察や検査などによって得られる情報に基づいて患者の病態生理を正しく解釈する技術と正しい診断を行うためには、正確な情報収集とそれを解釈する知識と技術が必要である。正しい診断を行うための知識と技術を学ぶとともに得られた情報を整理、統合し、分析できる基礎的能力を身につける。				
科目目標		1. 病態生理の基礎を理解することができる 2. 診断の基礎と方法を理解することができる 3. 臨床推論の基本を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	病歴のとり方と現症の診察 診察の記載法			講義	鈴木
2	2	検査の選択と結果の解釈 一般情報・医学情報			講義	
3	2	医学情報の使い方 基本的臨床検査			講義	
4	2	一般検査（尿検査）			講義	
5	2	一般検査（血液学的検査）			講義	
6	2	一般検査（血液学的検査）			講義	
7	2	化学検査			講義	
8	2	化学検査			講義	
9	2	化学検査			講義	
10	2	化学検査			講義	
11	2	化学検査 免疫学的検査			講義	
12	2	内分泌検査			講義	
13	2	微生物学的検査 臨床推論			講義	
14	2	病理学的検査とその解釈			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 臨床検査 医学書院				
備 考		病態生理学をしっかりと理解しておいてください。				

科目名		関係法規		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (2)		開講時期	2 年次	
担当教員		矢口 智春			後期	
実務経験		看護専門学校にて講師経験あり、講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格		
				弁護士		
授業概要		保健・医療・福祉関係の法律の概要を学習し、国民の健康を守る立場である看護職に必要な法規について理解する。また、医事法規を理解し、今後の法改正に柔軟に対応できる能力を学ぶ。				
科目目標		1. 法律の基礎を理解することができる 2. 看護職に必要な法律を理解することができる 3. 労働における法律を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	法の概念 法の基礎的理解及び生命倫理にかかわる医療問題を考察する			講義	矢口
2	2	厚生労働行政のしくみ 医療の現場と行政機関の関連、人生と法			講義	
3	2	医事法規 衛生法規の沿革及び分類			講義	
4	2	薬事法規			講義	
5	2	倫理と法			講義	
6	2	様々な医療事故・医療過誤事例・民事責任・刑事責任・行政責任・道徳的責任				
7	2	看護職・看護学生にとっての基本法 保健師助産師看護師法			講義	
8	2	保健衛生法規 地域保健・健康増進・母子保健・高齢者・精神障害者保健・			講義	
9	2	保健衛生法規 学校保健・あらゆる対象に必要な保健衛生について理解する			講義	
10	2	環境衛生法			講義	
11	2	労働関係法規			講義	
12	2	看護に関する社会資源の概説 社会保障制度・社会保険制度・公的扶助制度・社会福祉制度			講義	
13	2	社会福祉のまとめ			講義	
14	2	終講試験対策			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院				
備 考						

科目名		社会福祉論		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		林 安昭			前期・後期	
実務経験		講義関連分野の研究に従し、各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格 社会福祉士・主任介護支援専門員・精神保健福祉士		
授業概要		自分で感じたことや考えたことを言語化して、他者に伝えることを通じ、多様な意見を取り込みながら社会福祉について学ぶ。				
科目目標		1. 社会福祉について、理念・制度および活動から総合的に理解することができる 2. 看護と福祉の関係性を学び、他職種連携の実際を理解することができる 3. 福祉制度の基礎を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	社会福祉とはなにか 身近な例からイメージする			講義 グループワーク	林
2	2	社会福祉 社会保障の動向			講義	
3	2	社会保障（社会保険）制度 年金制度／医療保険			講義	
4	2	社会保障（社会保険）制度 雇用保険／労働保険			講義	
5	2	子ども・家庭福祉			講義	
6	2	映画鑑賞			DVD グループワーク	
7	2	公的扶助 生活保護制度			講義	
8	2	障害（児）者福祉			講義	
9	2	高齢者と福祉 高齢者福祉の動向			講義	
10	2	高齢者と福祉 介護保険制度を中心に			講義	
11	2	ソーシャルワーカーとその実践 地域福祉の内容を含む			講義	
12	2	ソーシャルワーカーとその実践			講義	
13	2	まとめ			講義	
14	2	まとめ			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 社会保障・社会福祉 医学書院				
備 考						

科目名		公衆衛生学		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		15 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		加瀬 哲男			前期	
実務経験		大学の研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する		関連資格		
				医学博士		
授業概要		看護師に必要な公衆衛生に関する基本的知識を学びます。看護の対象である「人間」は世界中で生活しています。世界で生活する人々の健康に関する歴史と現状そして課題を様々な角度から学習します。COVID-19のパンデミックや第三次健康日本21、学校や職場における健康、感染症法の改正、災害時の保健・医療・福祉システムなど、身近なテーマから学ぶことで理解が深まります。				
科目目標		1. 「人間」の健康と生活する環境について理解する 2. 「人間」の健康を脅かす問題と行われている施策がわかる 3. 様々な健康レベル・発達段階・場所における公衆衛生についての知識を得る 4. 公衆衛生の視点で看護を考えることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	公衆衛生とは 公衆衛生の歴史 公衆衛生の理念			講義	加瀬
2	2	公衆衛生の活動としくみ 看護師の役割 疫学・保健統計			講義	
3	2	感染症の予防			グループワーク 図表	
4	2	食品衛生 環境衛生			講義	
5	2	母子保健 成人保健 高齢者保健			講義	
6	2	精神保健 障害者保健・難病保健 産業保健			講義	
7	2	学校保健 災害保健 国際保健			講義	
8	1	終講試験				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院				
備 考						

科目名		レクレーション論 (アロマセラピー・音楽療法)		科目区分	専門基礎分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次
担当教員		城井 佳子	源氏 万記子		前期
実務経験		各種学部の講義経験が豊富な講師が担当する		関連資格	
				アロマコーディネーター・音楽療法士	
授業概要		リラクゼーションやリフレッシュに役立てる基礎知識と実践できる能力を楽しく学びます。また、様々な健康状態にある対象をホリスティックにとらえ、身体・精神の恒常性をはかります。			
科目目標		1. レクレーションを通して、人々の健康を養う 2. レクレーションが健康にとって果たす意味を理解する 3. 代替療法のアロマセラピーを学ぶ 4. 音楽の力と音楽療法を学ぶ			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	看護における代替療法を知る アロマセラピー概論（aroma therapyの健康における意味を知る） アレルギーテスト		講義	城井
2	2	自分の好きな香りと苦手な香りを知る アロマセラピー各論（精油の効果、精油の人体吸収と作用経路、危険性について）		講義	
3	2	アロマセラピー各論（精油の使い方、精油に関する基礎知識） 手浴・足浴・吸入		実技	
4	2	手浴・足浴・吸入		実技	
5	2	オイルトリートメントについて（効果と注意点） キャリアオイルの必要性		講義	
6	2	オイルトリートメント（自分をcareする）		実技	
7	2	オイルトリートメント（患者様にcareする）		実技	
8	2	音楽の力 音楽の効用		講義	源氏
9	2	脳の構造		講義	
10	2	クラシック音楽の歴史		講義	
11	2	音楽療法実践活用法（リズム編）		実技	
12	2	音楽療法実践活用法（歌唱編）		実技	
13	2	音楽療法実践活用法（器楽編）		実技	
14	2	音楽療法実践活用法（鑑賞編）		実技	
15	2	終講試験／まとめ			
成績の評価方法		筆記試験：100点（城井：50 源氏：50）		認定基準	筆記試験：60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		教科書は使用せず、毎授業ごとに資料を配布します。			
備 考		フローレンス・ナイチンゲールが「治療はケアにあり」と記しているように、病気の回復には単に医療的介入だけでは不可能です。そのために、あらゆる技術を駆使しなければなりません。アロマセラピーや音楽療法はこれらの目的のための看護技術の一つと考えられています。アロマセラピーには、香りを嗅ぐということと、マッサージによる患者へのタッチングという基本的な看護技術の要素が含まれており、看護介入の一つとして非常に有用です。			

科目名		看護学概論Ⅱ (看護倫理・看護理論)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		田中 奈絵子			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		看護の専門職として求められる倫理観と判断力を養い、主要な看護理論の理解を深める。事例検討を通して、理論を実践へ結びつける力を育成する。				
科目目標		1. 看護倫理の基礎的知識を学ぶ。 2. 倫理的葛藤場面における判断能力を養うことができる。 3. 看護理論を通じて看護の本質に触れる。 4. 看護理論を看護実践と関連させて学ぶ。				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	倫理とはなにか 意義 歴史 倫理の原理原則			講義	田中
2	2	職業倫理とはなにか 看護実践上の倫理的概念 看護実践と倫理			講義	
3	2	専門職の倫理／看護倫理 専門職に求められる倫理①			講義	
4	2	専門職の倫理／看護倫理 専門職に求められる倫理②			講義	
5	2	看護の場におけるケアの倫理 看護業務と倫理			講義	
6	2	現代医療の場で求められる看護師の倫理			講義	
7	2	倫理的問題へのアプローチ			講義 グループワーク	
8	2	倫理的問題へのアプローチ			講義 グループワーク	
9	2	看護理論家がとらえた看護の本質①			講義	
10	2	看護理論家がとらえた看護の本質②			講義	
11	2	看護理論家がとらえた看護の本質を調べよう①			グループワーク	
12	2	看護理論家がとらえた看護の本質を調べよう①			グループワーク	
13	2	看護理論家がとらえた看護の本質を調べよう①			グループワーク	
14	2	看護理論家がとらえた看護の本質を調べよう①			発表	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学 医学書院				
備 考						

科目名		基礎看護学方法論Ⅶ (臨床実践)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		菅原 悠太			前期・後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		患者の急性増悪を含め様々な訴えに対して、看護学と医学の視点から包括的なアセスメントを行い、患者の生活を 中心とした健康管理から看取りまでのプライマリケア看護に必要な検査、臨床判断治療の補助、治療の経過を主 体的にかつ必要に応じて他職種と協働で実施できる基礎的な臨床実践能力を養う。				
科目目標		1. 科学的根拠に基づいた看護技術を提供できる基礎的能力を養う 2. 的確な看護判断の必要性を学ぶ 3. 個別に応じた臨床判断を行う基礎的能力を養う				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	医療安全の確保			講義	菅原
2	2	安全確保対策の適用の判断と実践			講義	
3	2	チーム医療に必要なコミュニケーション			講義	
4	2	適切な感染管理に基づいた感染防止			講義	
5	2	患者及び家族への説明と助言			講義	
6	2	的確な看護判断と適切な看護技術の提供			講義	
7	2	科学的根拠に基づいた看護技術の必要性の判断			講義	
8	2	看護技術の正確な方法の実践			講義	
9	2	個別に応じた看護技術の選択と応用			講義	
10	2	安全な方法で看護技術の実践			講義	
11	2	計画立案と看護技術の実践①			講義	
12	2	計画立案と看護技術の実践②			講義	
13	2	計画立案と看護技術の実践③			講義	
14	2	OSCE			技術試験	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：50点 実技試験：50点	認定基準	筆記試験：6割以上で合格 技術試験：6割以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護 電子版 医学書院 看護診断 ハンドブック リンダJ. カルペニート著 竹花 富子訳 医学書院				
備 考		講義の中で、知識を習得し、思考過程を身につけましょう。				

科目名		地域看護学方法論Ⅰ (在宅看護技術)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30(2)		開講時期	2年次	
担当教員		松井 由美子			後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事し、看護師養成所において在宅看護の臨地実習経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		在宅看護の特徴を踏まえ、療養状態に合わせた看護・継続看護を理解する。また、療養者とその家族を取り巻く環境に合わせた在宅看護実践の技術についての知識と技術を学ぶ。				
科目目標		1. 訪問看護の基礎的概要を理解することができる 2. 在宅療養生活の基礎的な技術を理解し、実践することができる 3. 在宅における災害看護を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	在宅看護とは			講義	松井
2	2	在宅療養生活を支える基本的な技術 コミュニケーション フィジカルアセスメント 環境整備			講義	
3	2	在宅療養生活を支える基本的な技術 生活リハビリテーション 感染予防 ターミナルケア			講義	
4	2	日常生活を支える看護技術（食生活・呼吸・排泄・睡眠）			講義	
5	2	日常生活を支える看護技術（清潔と更衣・肢位の保持と移動）			講義	
6	2	残存機能を活用する在宅看護技術（移動方法）			演習	
7	2	療養を支える看護技術 医療ケアの原理原則・薬物療法（輸液管理、がん外来化学療法等）			講義	
8	2	療養を支える看護技術 肺痰ケア・気管カニューレ管理・在宅人工呼吸療法			講義	
9	2	療養を支える看護技術 経管栄養法・排泄ケア（ストマ管理）			講義	
10	2	療養を支える看護技術 防災対策			講義	
11	2	療養を支える看護技術 P E G①			演習	
12	2	療養を支える看護技術 P E G②			演習	
13	2	足病変のケア 床上での足浴			講義	
14	2	国家試験対策			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院				
備 考		疾病や障がいがあっても、在宅で <u>その人らしく生きるため</u> には、どのような視点や援助が必要となるでしょうか。療養者とその家族及び療養の場の多様性・複雑性に対応したその人らしい生活を支援するための知識や技術を学びましょう。				

科目名		地域看護学方法論Ⅱ (事例展開)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		鎌田 みどり			前期・後期	
実務経験		医療機関において看護師、訪問看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師・介護支援専門員		
授業概要		対象の健康課題を見出し、計画・実施・評価する地域看護過程を学ぶ。また、対象の生活の場への訪問時のマナー・態度について学ぶ。				
科目目標		1. 地域看護過程の特徴を理解する 2. 地域看護の特徴を踏まえた地域看護過程の展開方法を理解する 3. 訪問時のマナー・態度について考えることができる 4. 対象とその家族の生活の質 (QOL) を維持、向上を考える支援を持つことの必要性を理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	地域看護過程の展開ポイント			講義	鎌田
2	2	事例紹介 基本情報シート記入			個人ワーク	
3	2	事例紹介 基本情報シート記入			個人ワーク	
4	2	ICF概念図の説明 ICF分析の活用方法と記入			講義	
5	2	ICFのアセスメントシートを整理 (健康状態、心身機能)			講義	
6	2	ICFのアセスメントシートを整理 (活動、参加)			演習	
7	4	ICFのアセスメントシートを整理 (環境因子、個人因子)			講義	
8						
9	2	問題リスト記入 看護計画立案・記入			講義	
10	2	エコマップ・ジェノグラムの記入			講義	
11	2	訪問時のマナー 演習案立案①			講義 グループワーク	
12	2	訪問時のマナー 演習案立案②			グループワーク	
13	2	訪問時のマナー演習発表			グループワーク 発表	
14	2					
15	2	訪問時のマナー 【振り返り発表】			グループワーク	
成績の評価方法		事例展開の提出：70点 演習評価：30点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 看護診断ハンドブック				
備 考						

科目名		地域看護学方法論Ⅲ (地域連携論)		科目区分	専門分野		
授業時数 (単位数)		4 5 (2)		開講時期	2 年次		
担当教員		岡田 万貴子			前期・後期		
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格			
				看護師			
授業概要		地域における生活者と健康とそれを支えるケアを理解し、多職種と共に地域の人々の生活の質を守るために、地域で生活する人々の暮らしや健康活動に関する意識を知る。また、地域の学習目的は、人々が暮らす地域という環境において、対象者の生きることを支えるという、看護の基本となるものを理解しましょう。					
科目目標		1. 地域看護の基礎を理解することができる 2. 看護の立場から地域や特徴を理解することができる 3. 地域の生活者と健康活動を企画・運営することができる					
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員	
1	2	ヘルスプロモーションとは			調べ学習	岡田	
2	2	ヘルスプロモーションとは			講義		
3	2	理想的で健康的なまちづくり			講義		
4	4	理想的で健康的なまちづくり 地域マップの作成 (ipadフィールドワーク)			演習		
5							
6	4	まちの保健室 看護の実際 高齢者とレクリエーション					
7							
8	4	理想的で健康的なまちづくり 地域マップの作成 (まとめ)					
9							
10	2	地域で暮らす人々の「暮らし」の理解			講義		
11	2	中間発表			グループワーク		
12	2	エコマップ・ジェノグラムの記入			講義		
13	2	地域で暮らす人の健康 (企画・運営)			講義		
14	4				実技		
15							
16	2				講義 グループワーク		
17	2	身近な人へのインタビュー案作成 (インタビュー・企画)			講義 グループワーク		
18	2	身近な人へのインタビューのまとめ方			講義 グループワーク		
19	2	子育て世代が住みやすいまちづくり			講義		
20	2	高齢者が住みやすいまちづくり			講義 グループワーク		
21	2	健康的なまちづくり			発表準備 グループワーク		
22	2	健康的なまちづくり まちの保健室での看護の実際			発表		
23	1	終講試験／まとめ					
成績の評価方法		筆記試験：4 0 点 演習：4 0 点 スポーツ大会：2 0 点		認定基準	総合点：6 0 点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院					
備 考		学生の家族や親族のインタビューを参考にし、地域住民の健康や健康維持への活動や考えなどを知ること で、地域の創生と地域文化の発展を踏まえ、健康課題、地域課題を考察し、必要とする看護活動について も考えていきましょう。また、多職種連携など社会資源の活用も併せて考えていきましょう。					

科目名		成人看護学方法論Ⅰ (生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護)			科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		30 (1)			開講時期	2 年次
担当教員		松村 のぶよ 新谷 久美子 村上 美帆子 				

科目名		成人看護学方法論Ⅱ (生体防御の低下、脳神経障害、体液調節障害、運動機能障害のある看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		浦田 明子 北野 飛鳥	田中 宏美 柴崎 生子		前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		解剖生理学や病態生理学で学んだ知識をもとに、対象に生じた健康障害の特徴を理解し、それぞれの看護の特徴を学ぶ。そして、健康回復に向けた対象のニーズを満たすために必要な看護を実践するための基礎的知識を学習する。				
科目目標		1. 対象に生じた健康障害と看護の特徴を既修内容と統合した知識にできる 2. 健康回復、セルフマネジメントに向けた対象のニーズを理解できる 3. 対象に生じた健康障害の病期、症状、検査、治療および看護の実践が理解できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	生体防御と感染防御の基礎知識			講義	柴崎
2	2	感染症のある患者の看護			講義	
3	2	血液・造血機能障害のある患者の看護			講義	
4	2	免疫機能障害のある患者の看護			講義	
5	2	脳神経機能障害のある患者の看護 脳腫瘍			講義	北野
6	2	脳神経機能障害のある患者の看護 脳梗塞			講義	
7	2	脳神経機能障害のある患者の看護 脳出血、くも膜下出血			講義	
8	2	脳神経機能障害のある患者の看護 VPシャント術を受ける患者の看護			講義	
9	2	体液調整機能障害のある患者の看護 検査、治療を受ける患者の看護（尿検査、生検、食事・運動・薬物療法）			講義	田中宏
10	2	体液調整機能障害のある患者の看護 疾患を持つ患者の看護（急性・慢性腎疾患、腎がん、膀胱がん） 透析療法を受ける患者の看護（血液透析、腹膜透析）			講義	
11	2	運動機能障害のある患者の看護 骨肉腫			講義	浦田
12	2	運動機能障害のある患者の看護 手術（骨折）を受ける患者の看護			講義	
13	2	運動機能障害のある患者の看護 手術（椎間板ヘルニア）を受ける患者の看護			講義	
14	2	運動機能障害のある患者の看護 手術（大腿骨頸部骨折）を受ける患者の看護			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院				
備 考						

科目名		成人看護学方法論Ⅲ (身体の一部を喪失した人の看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		山口 真人 垣内 公允 今岡 弘一 石川 慎二 松井 洸 清水 将司 富山 智也			前期	
実務経験		医療機関において理学療法士・言語聴覚士として従事する講師が担当する		関連資格		
				理学療法士・言語聴覚士		
授業概要		リハビリテーションの概念を理解し、チームアプローチの意義、チームにおける看護の役割や機能を理解する。リハビリテーション看護を必要とする対象の状況を理解し、わが国におけるリハビリテーション看護の現状と今後の課題について理解する。また、発達段階や健康レベル、障がいの種類からみた対象の特性と看護方法の特徴、および精神領域、地域におけるリハビリテーション看護を学習する。				
科目目標		1. リハビリテーションの概念を理解することができる 2. 疾患別におけるリハビリテーションの看護を理解することができる 3. リハビリテーション看護を実施することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	看護に活かすリハビリテーション①高齢者のリハビリテーション概論			講義	今岡
2	2	看護に活かすリハビリテーション②関節可動域測定と筋力測定			講義	
3	2	言語聴覚療法について①失語症や聴覚障害について学ぶ			講義	垣内
4	2	言語聴覚療法について②嚥下障害や食事介助について実技を交えながら学ぶ			講義	
5	2	呼吸不全や低酸素状態の病態や生理学、酸素マスクの選択、酸素ボンベ、吸引、排痰法など臨床で役立つ呼吸療法について学習を行う			講義	石川
6	2	高齢者・障害者に対するリハビリテーションとケアの真のあり方を探る～福祉先進国スウェーデンの事例を通して日本の課題を考える (1)～			講義	山口
7	2	高齢者・障害者に対するリハビリテーションとケアの真のあり方を探る～福祉先進国スウェーデンの事例を通して日本の課題を考える (2)～			講義	
8	2	トランスファー 各種杖の使い方、合わせ方、方法			演習	松井 清水 富山
9	2	他動的関節可動域運動 徒手筋力テスト (MMT)、ROM			演習	
10	2	リハビリテーション看護の対象・方法 運動器系・中枢神経系の障害とリハビリテーション看護			演習	
11	2	呼吸器障害とリハビリテーション看護①			演習	
12	2	呼吸器の障害とリハビリテーション看護②			講義	
13	2	循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義	
14	2	感覚器系の障害とリハビリテーション看護 総論まとめ			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：50点 レポート点：50点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
備 考						

科目名		成人看護学方法論Ⅳ (生命危機状態にある人の看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		宮井 美樹	マック 香織		宮崎 巳美	前期
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する		関連資格		
				看護師・手術看護認定看護師		
授業概要		様々な疾患により侵襲的治療や検査を受ける人とその家族を援助するために、生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護支援方法について学習する。さらに、緩和ケア（パリアティブ・ケア）、終末期ケア（エンド・オブ・ライフ）に関する諸概念・諸課題について学習し、対象である人々への援助方法を考える。				
科目目標		1. 術前・術中・術後における看護を理解することができる 2. 術後環境における看護を理解することができる 3. 終末期における対象の理解と援助方法が理解できる 4. 全人的ケアの概念を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	周術期にある対象の理解 外科的侵襲から回復期の生体反応			講義	宮井
2	2	手術侵襲に対する生体反応と合併症			講義	
3	2	手術室における看護の役割 手術を受ける高齢者の看護			講義	
4	2	起こりやすい術中・術後合併症と看護 呼吸器合併症予防（呼吸法、トライボール）			講義	
5	2	ICU・HCUにおける患者の看護（術後ベッド）			講義	
6	2	輸液ポンプ・シリンジポンプ・ドレーン挿入中の体位変換・創傷処置			演習	
7	2	輸液ポンプ・シリンジポンプ・ドレーン挿入中の寝衣交換・離床への援助			演習	
8	2				演習	
9	2	生命倫理と看護倫理 意思決定支援・ACP			講義	マック 宮崎巳
10	2	安楽死・尊厳死 苦痛をやわらげ日常生活を営むための援助			講義	
11	2	日常生活を支える援助 心理的ケア			講義	
12	2	心理的ケア 病によるストレスへの対処の力とその援助			講義	
13	2	全人的ケアの実践 臨死期のケア・安楽のケア			講義	
14	2	スピリチュアルケア（死と向き合う苦を支えるケア） 家族ケア			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統別看護学講座 別巻 緩和ケア				
備 考						

科目名		成人看護学方法論Ⅴ (事例展開)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		松原 希実子			前期	
実務経験		医療機関において手術室・急性期看護に従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		本授業では、胃がん患者の周手術期（術前・術中・術後）の一連の経過を事例を通して学習する。 まず、術前・術中の情報を統合して術後のリスクを予測するアセスメント能力を養う。次に、術後1日目の急性期場面において、刻々と変化する患者のサインから異常の予兆を捉える「気づきの演習」を実施し、臨床判断の基礎を構築する。 これらの分析を基に関連図を作成し、病態・侵襲・心理社会的な側面を統合して看護上の優先順位を決定し、個別性のある看護計画立案までを完結させる。				
科目目標		1. 術前および術中の情報が、術後の経過に与える影響を論理的に説明できる。 2. 術後1日目の複雑な情報の中から、優先度の高い情報を抽出し、合併症（術後出血、無気肺、縫合不全等）の予兆として言語化できる。 3. 術後侵襲に対する生体反応と、患者の個別性を関連図によって視覚的に整理できる。 4. 生命維持（ABC）および患者の苦痛緩和の視点から、看護問題の優先順位を判断できる。 5. 事例演習をととして、根拠に基づいた援助計画を作成できる 6. 根拠に基づき、急性期特有の観察、ケア、教育的介入を含む看護計画を立案できる。				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	周術期看護の意義と看護過程の位置づけ 演習事例紹介、看護過程の進め方について			講義	松原
2	2	事例患者の情報収集と情報の整理			講義・演習	
3	2	手術前アセスメント（身体的・心理的・社会的側面） 手術前のリスクアセスメント			講義・演習	
4	2	手術中アセスメント（身体的・心理的・社会的側面） 手術中のリスクアセスメント			講義・演習	
5	2	手術後アセスメント（身体的・心理的・社会的側面）			講義・演習	
6	2	手術後アセスメント（身体的・心理的・社会的側面）			講義・演習	
7	2	手術後アセスメント（身体的・心理的・社会的側面）			講義・演習	
8	2	急性期のアセスメントの視点（術後侵襲と生体反応の復習） ABC（気道・呼吸・循環）の視点での情報収集の優先順位について			講義・演習	
9	2	情報のフィルタリング演習（命を守るために必要な情報の抽出について）			講義・演習	
10	2	気づきの論理化と予測、臨床判断 「なんとなく変」を根拠と合併症リスクに基づき言語化し分析結果の妥当性検討			講義・演習	
11	2	関連図の作成			演習	
12	2	関連図の作成			演習	
13	2	関連図の作成			演習	
14	2	優先順位の			演習	
15	2	看護計画の立案			演習	
成績の評価方法		看護過程記録用紙、講義・演習で使用したシートの提出にて評価：100点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 医学書院 看護診断ハンドブック 医学書院 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 医歯薬出版株式会社				
備 考						

科目名		老年看護学方法論Ⅰ (老年者の看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (2)		開講時期	2 年次	
担当教員		山田 直子 喜多 佳永子 片山 亮			前期・後期	
実務経験		医療福祉施設において看護師として従事する講師が担当する 歯科衛生士として従事する講師が担当する		関連資格		
				看護師・歯科衛生士・放射線技師		
授業概要		老年看護には、高齢者の特徴を踏まえ高齢者の誰もができる限り健康な生活ができ、その人らしい人生を送るために支援する役割が求められている。高齢者に特徴的な症候、疾患、障害について理解し、健康を支えるための看護の技法や様々な状態・状況に応じた看護について学ぶ。				
科目目標		1. 老年期の身体的・精神的・社会的な状態を理解することができる 2. 老年期における健康を理解することができる 3. 老年看護におけるコミュニケーションや援助について学習することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	日常生活を支える基本的活動			講義	山田
2	2	転倒やその他の事故のアセスメント			講義	
3	2	食事・食生活・栄養ケア			講義	
4	2	排泄・排尿・排便のアセスメント			講義	
5	2	高齢者の生活リズム			講義	
6	2	高齢者のコミュニケーション			講義	
7	2	高齢者が豊かに生きるために			講義	
8	2	高齢者の退院支援			講義	
9	2	介護福祉施設における看護 看護と介護の協働、多職種連携、チームアプローチ			講義	
10	2	高齢者の口腔ケアのポイント			講義	喜多
11	4	口腔ケア			演習	
12						
13	2	臨床放射線医学：放射線医学のなりたちと意義、画像診断と看護 X線診断、CT、MRI、超音波検査、核医学検査、IVR・血管造影			講義	片山亮
14	2	臨床放射線医学：放射線治療 放射線治療総論、放射線治療と看護、放射線治療各論、放射線防護			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：1 0 0 点		認定基準	筆記試験：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 老年看護学 医学書院 / 別巻 放射線				
備 考						

科目名		老年看護学方法論Ⅱ (事例展開)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		菅原 悠太			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格 看護師		
授業概要		老年期にある対象の加齢による変化や健康障害を理解するために看護過程を展開し、その人らしく生活するための看護を考えることができる。				
科目目標		1. 老年期にある対象の加齢に伴う身体的、心理(精神)的、社会的特徴を理解できる 2. 疾患の理解に必要な解剖生理学、病態生理学を踏まえて対象に生じている健康障害を理解できる 3. 対象の健康障害によって生じた現象を分析し、看護診断を抽出できる 4. 抽出した看護診断に基づき看護目標・看護計画を立案し、もてる力を活かした援助を考えることができる 5. 1～4までの目標を達成するために主体的に学習に取り組むことができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	老年看護学方法論Ⅱ（事例展開）の概要と老年看護過程について 事例展開に関する基本的なルールと評価の説明 事例紹介 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴の考え方について			講義	菅原
2	2	対象の疾患についての理解とフェイスシート・データベースにについて 疾患の解剖・病態生理のおさらいと文献検索方法について フェイスシート・データベースの記入方法の説明と実施			講義 個人ワーク	
3	2	アセスメントを行うための情報収集、情報分析について アセスメント（解釈・逸脱の判断）とは 統合（総合・推論・照合）とは			講義	
4	4	健康知覚－健康管理パターンの分析 対象の疾患とこれまでの生活について			講義 個人ワーク	
5		現在、今後の生活に及ぼす影響と療養生活における安全について				
6	4	生活行動に関わる各パターンの分析 栄養代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン			グループワーク	
7		睡眠－休息パターン、認知－知覚パターン				
8	2	アセスメントを進める中で工夫している点、困っている点 対象を理解するために必要な分析とは			講義 個人ワーク	
9	4	心理、社会的側面に関わる各パターンの分析 自己知覚パターン、コーピング-ストレス耐性パターン			講義 個人ワーク	
10		価値－信念パターン、役割－関係パターン、セクシャリティー生殖パターン				
11	4	関連図の作成			講義 個人ワーク	
12		関連図の構成要素と対象の全体像を整理するための関連図とは				
13	2	優先順位の決定と看護計画立案について 問題リストの作成について			講義	
14	2	問題抽出カンファレンス 優先順位を決定した理由 # 1～3までの短期目標と長期目標について			グループワーク	
15	2	看護計画の立案 設定した短期目標を達成するための看護計画について 最終提出の提出方法について 期日、提出方法、注意事項			講義 個人ワーク	
成績の評価方法		提出物：100点		認定基準	提出物：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 電子版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 電子版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 電子版 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 脳・神経 電子版 医学書院 疾患別看護過程の展開 電子版 学研メディカル秀潤社 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 電子版 看護診断ハンドブック 医学書院				
備 考						

科目名		小児看護学概論		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		田中 奈絵子 片山 綾	畠山 亮夏 畠山 織恵		前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		小児看護の対象となる子どもを理解し、小児看護の役割について学ぶ。特に現在の子どもと家族を取り巻く社会背景を理解し、子どもを通して家族の役割についても理解する。また、小児に生じやすい疾病および障がい、子どもと家族にどのような影響を与えるか学ぶ。				
科目目標		1. 小児看護に関心を持ち、自身の看護観を養うことができる 2. 子どもと家族を取り巻く社会問題に関心を寄せ、看護者の役割を考えることができる 3. 子どもの成長・発達を学び、その過程を理解した上で必要とされる関わり方を考えることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	小児看護の特徴と理念（小児看護の目指すところ）			講義	田中
2	2	小児看護の特徴と理念（子どもの特徴・子どもと家族、社会）			講義	
3	2	小児看護の特徴（諸統計）			講義	
4	2	子どもの成長・発達（一般原則）			講義	
5	2	子どもの成長・発達（発達評価）			講義	
6	2	子どもの成長・発達（小児看護に必要な理論）			講義	
7	2	各発達段階について：乳児①（身体生理と各機能の発達）			講義	
8	2	各発達段階について：乳児②（身体生理と各機能の発達）			講義	
9	2	各発達段階について：幼児（身体生理と各機能の発達）			講義	
10	2	各発達段階について：学童（身体生理と各機能の発達）			講義	
11	2	各発達段階について：思春期・青年期（身体生理と各機能の発達）			講義	
12	2	病気・障がいをもつ子どもと家族の援助①			DVD	片山
13	2	病気・障がいをもつ子どもと家族の援助②			演習	畠山 亮夏 畠山 織恵
14	2	病気・障がいをもつ子どもと家族の援助③				
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		田中：90点 畠山・片山：10点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院				
備 考						

科目名		小児看護学方法論Ⅰ (治療と看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		野村 佳香 盛光 涼子			前期・後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する		関連資格		
				看護師・保健師		
授業概要		病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護について理解する。小児期に特有の健康障がいと病期別にとらえ、各病期にある子どもとその家族への看護の特徴について理解する。治療を受ける子どもを対象とした関わりを学ぶ。				
科目目標		1. 小児に多い疾患や検査・処置を理解することができる 2. 小児の健康障がいを有する児の看護を理解することができる 3. 疾患をもつ患児と家族の看護を理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	小児の検査と処置と看護師の役割 (子どもの痛みの受け止め方・痛みの表現方法・痛みの客観的評価・疼痛軽減の援助)			講義	野村
2	2	救急処置が必要な子どもと家族への看護 乳幼児の意識レベルの判断 (緊急時の把握)			講義	
3	2	小児に多い事故 (誤飲・誤嚥・中毒・熱傷・溺水・交通事故・その他)			講義	
4	2	小児に多い症状 (発熱・嘔吐・下痢・脱水・皮膚症状)			講義	
5	2	先天的な問題を持つ児と家族への看護 (先天異常の種類と特徴)			講義	
6	2	小児に多い疾患と看護 (突発性血小板減少性紫斑病・膠原病・川崎病)			講義	
7	2	小児に多い疾患と看護 (腸重積・急性腸炎・腸内感染症・熱性けいれん・髄膜炎)			演習	
8	2	小児に多い疾患と看護 (上腕骨課上骨折・先天性股関節脱臼・麻痺・虐待・その他)			講義	
9	2	発達障害 (LD・ADHD・アスペルガー・学習障害・自閉症など) 思春期の生活習慣病予防について			講義	
10	2	隔離が必要な子どもと家族の看護 (感染症・易感染状態)			講義	
11	2	食事制限が必要な子どもと家族の看護 (ネフローゼ症候群・潰瘍性大腸炎など) 在宅療法が必要な子どもと家族の看護 (脳性麻痺、慢性腎炎、筋ジストロフィーなど)			講義	
12	2	小児に多い疾患と看護 (肺炎・気管支喘息)			講義	盛光
13	2	小児に多い疾患と看護 (呼吸器感染症)			講義	
14	2	小児に多い疾患と看護 (アトピー性皮膚炎・食物アレルギー)			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院				
備 考						

科目名		小児看護学方法論Ⅱ (小児の援助技術)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		片山 綾			後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格 看護師		
授業概要		演習や主体的な学習を通して、子どもに対し理解すべき関わり方、健康や安全を守るために必要な知識と特有の看護技術を習得する。				
科目目標		1. 小児看護を実践するために必要な子どもの形態的特徴や基礎技術に関する知識を習得する 2. 検査や処置を受ける子どもへの関わり方を理解し、自分なりの工夫を見出すことができる 3. 演習を通して、子どもの生命を守るために必要な知識・技術を習得する 4. 演習を通して、小児看護実践において求められる役割・自己の課題を見出すことができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	検査・処置を受ける子どもの看護			講義	片山
2	2	子どもの看護：バイタルサイン測定			講義	
3	2	子どもの看護：呼吸器症状の緩和			講義	
4	2	プレパレーション課題①			演習	
5	2	プレパレーション課題②			演習	
6	2	プレパレーション課題③			演習	
7	2	子どもの看護：注射・輸液管理			講義	
8	2	注射・輸液管理①			演習	
9	2	注射・輸液管理②			演習	
10	2	予防接種スケジュールリングワーク			演習	
11	2	子どもの看護：救命処置			講義	
12	4	乳幼児の一次救命処置演習（日赤）			演習	日赤指導員
13						
14	2	検査・処置を受ける子どもの看護（まとめ）			講義	片山
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：70点 日々の取り組み：30点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院				
備 考						

科目名		小児看護学方法論Ⅲ (事例展開)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		松原 希実子 片山 綾			後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格 看護師		
授業概要		事例を踏まえ看護過程を展開することにより、子どもの成長発達に応じた援助を学ぶとともに、小児看護学で学んだ知識の統合と図る。				
科目目標		1. 対象児の発達段階に応じた解剖学的特徴を踏まえた上で、病態について分析することができる 2. 対象児が疾患を抱えることによる、身体的・精神的・社会的な変化を分析することができる 3. 対象児の看護上の問題点を導き出し、発達段階に応じた看護計画を立案することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	看護過程の進め方 記録用紙の説明 事例紹介			講義	松原 片山
2	2	フェイスシート データベース			講義	
3	2	<分析> 健康知覚／健康管理パターン			講義	
4	2	<分析> 健康知覚／健康管理パターン			講義	
5	2	<分析> 栄養／代謝パターン			講義	
6	2	<分析> 排泄パターン			講義	
7	2	<分析> 活動／運動パターン			講義	
8	2	<分析> 睡眠／休息パターン 認知／知覚パターン			講義	
9	2	<分析> 自己知覚パターン 役割／管理パター			講義	
10	2	<分析> セクシャリティ／生殖パターン コーピング／ストレス耐性パターン 価値／信念パターン			講義	
11	2	関連図			講義	
12	2	関連図			講義	
13	2	関連図 問題リスト			講義	
14	2	看護計画立案			講義	
15	2	看護計画立案			講義	
成績の評価方法		看護過程記録用紙の提出にて評価：100点		認定基準	60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児看護各論 医学書院 看護アセスメント協会「ゴードン看護診断マニュアル」 医学書院				
備 考						

科目名		母性看護学概論		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		濱口 かつら			前期	
実務経験		医療機関にてにおいて産科病棟等及び分娩介助の経験がある講師が担当する		関連資格		
				看護師・助産師		
授業概要		女性の健康問題を身体的・精神的・社会的な観点から幅広く学習する。現代における女性の状況を理解し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの考えをもとに今後のヘルスケアの課題を考える。具体的には女性の性と生殖に関わる解剖生理、女性のライフサイクル、母子保健、生殖医療などの倫理的問題等を取りあげ、女性の家族の健康支援に関する看護の役割を考える				
科目目標		1. 女性の生涯を通じての性と生殖に関する健康を守ることの意義を考えることができる 2. リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から、次世代を育てるための女性への支援や看護について理解を深めることができる 3. グループワークを通して自主性や協調性を養い、母性看護の役割と課題を考えることができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	母性看護の基盤となる概念			講義	濱口
2	2	母性看護の基盤について（グループワーク）			講義 グループワーク	
3	2	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ セクシャリティ			講義	
4	2	母子保健統計の動向			講義	
5	2	母子保健に関する法律と施策			講義	
6	2	母性看護のあり方と倫理 （人工妊娠中絶・出生前診断・生殖補助医療）			講義	
7	2	母性看護のあり方と倫理 （人工妊娠中絶・出生前診断・生殖補助医療）			講義	
8	2	母性看護の対象理解（女性の生殖器・機能）			講義	
9	2	母性看護の対象理解（性周期・妊娠のメカニズム）			講義	
10	2	母性看護の対象理解まとめ			講義	
11	2	女性のライフステージ（思春期）			講義	
12	2	女性のライフステージ（成熟期）			講義	
13	2	女性のライフステージ（老年期）			講義	
14	2	まとめ			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：8 0 点 GWレポート課題：2 0 点		認定基準	6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論 医学書院				
備 考						

科目名		母性看護学方法論Ⅰ (周産期の看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		濱口 かつら			前期	
実務経験		医療機関にてにおいて産科病棟等及び分娩介助の経験がある講師が担当する		関連資格		
				看護師・助産師		
授業概要		女性のライフサイクルの一環となるマタニティサイクルにある、女性とその家族を対象に、生理的・心理的・社会的特徴を理解する。母性看護の特徴であるウェルネスの視点で、母子や家族を支援する方法を理解し、正常からの逸脱時の援助を学ぶ。また、高齢出産や核家族などの現代社会の問題も踏まえて、母子看護の援助方法について学ぶ。				
科目目標		1. 多様な場で生活する母性看護の対象を理解し、対象を取り巻く社会とニーズを理解する 2. 妊娠から産褥にいたる正常な経過と生理的特徴を理解し、対象に応じた看護を理解する 3. 胎児～新生児に至る正常な成長発達と生理的特徴を理解し、胎外生活を促進する看護を理解する 4. 周産期におけるハイリスクや異常経過を理解し、治療や管理の方法を理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	妊娠期における看護 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性			講義	濱口
2	2	妊娠期における看護 妊婦と胎児のアセスメント			講義	
3	2	妊娠期における看護 妊娠と家族の看護			講義	
4	2	妊娠の異常 妊娠の異常と看護			講義	
5	2	分娩期における看護 分娩の要素と正常経過				
6	2	分娩期における看護 産婦・胎児の観察とアセスメント			演習	
7	2	分娩期における看護 分娩期の看護の実際			グループワーク	
8	2	分娩の異常 分娩の異常と看護			演習	
9	2	産褥期における看護 産褥経過 産婦のアセスメント			発表	
10	2	産褥期における看護 褥婦と家族の看護			発表	
11	2	産褥の異常 産褥の異常と看護			講義	
12	2	新生児の看護 新生児の生理 新生児のアセスメント			講義	
13	2	新生児の看護 新生児の看護			講義	
14	2	新生児の異常 新生児の異常と看護			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 ナーシングプラティカ 母性看護学3 母性看護技術 メディカ出版				
備 考						

科目名		母性看護学方法論Ⅱ (母性援助技術)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		中川 里美			後期	
実務経験		医療機関にて産科病棟等及び分娩介助の経験がある講師が担当する		関連資格		
				看護師・助産師		
授業概要		母性看護学では、妊婦・産婦・褥婦・新生児をケアの対象とする。これらの対象者は、それぞれ発達段階や健康課題、心理状態、社会的背景、ADLが多様であり、必要とされる看護技術にも特徴がある。本授業では、対象の特徴を踏まえて看護技術の目的や援助方法を理解し、理論と結び付けて実践できる力を養うことを目指す。母性看護学実習に向けて、手順書や援助計画書を作成しながら、講義と演習を組み合わせ学習を進める。				
科目目標		1. 周産期各期（妊娠・分娩・産褥・新生児）の対象者の特徴を理解する 2. 妊婦健康診査に必要な看護技術を習得する 3. 分娩中の産婦、出生直後の新生児に必要な看護について理解する 4. 褥婦・新生児に必要な看護技術を習得する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	4	オリエンテーション（演習の進め方） 妊婦の健康診査に必要な看護技術について講義と手順書の作成 （子宮底長計測・腹囲計測・レオポルド触診法・分娩監視装置・胎児心拍陣痛図の判読方法・超音波ドプラ法）			講義	中川
2						
3	4	【演習】 子宮底長計測・腹囲計測 レオポルド触診法 超音波ドプラ法 分娩監視装置（取扱いと装着・実施中の看護についてSimMomを用いた演習） 胎児心拍陣痛図の判読基準（正常波形と一過性徐脈について）			演習	
4						
5	4	分娩期（産婦の観察および看護について）（講義）			講義 演習	
6		【演習】 分娩シミュレーション（SimMomを用いた演習）				
7	4	産褥期・新生児期の観察とアセスメント（講義）			講義 グループワーク	
8		産褥期・新生児期の全身観察と報告演習に向けての手順書作成（GW）				
9	4	【演習】褥婦のフィジカルイグザミネーション 退行性変化の観察（子宮底高）、全身観察、進行性変化の観察→観察結果の報告 直接授乳の方法と観察			演習	
10						
11	4	【演習】新生児のフィジカルイグザミネーション 新生児のバイタルサイン測定・全身観察→観察結果の報告			演習	
12		新生児の諸計測抱き方・寝かせ方・衣服・おむつ交換				
13	4	【演習】 新生児の沐浴			演習	
14						
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：60点 提出物：40点	認定基準	総合点：60点以上で合格		
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版 医歯薬出版株式会社 ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 メディカ出版 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 根拠がわかる母性看護技術 南江堂				
備 考		質問は適宜受け付けます。				

科目名		母性看護学方法論Ⅲ (事例展開)		科目区分	専門分野
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次
担当教員		濱口 かつら			前期・後期
実務経験		医療機関にておいて産科病棟等及び分娩介助の経験がある講師が担当する		関連資格	
				看護師・助産師	
授業概要		妊娠・分娩・産褥期にある母性看護の特徴を理解し、ウエルネスの視点から看護について考察し実践能力を養う			
科目目標		1. 妊娠・分娩・産褥期にある母子の健康維持・促進するための看護を展開する 2. 性・生殖に関わる課題や看護の意味を考えることができる 3. 周産期にある対象への保健指導を考えることができる 4. 育児に関する社会資源の活用について考えることができる			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	母性看護における看護過程 ウエルネス型診断について		講義	濱口
2	2	妊娠期の情報収集		演習	
3	2	妊娠期の看護過程		演習	
4	2	妊娠期の看護過程		演習	
5	2	産婦の看護過程 出生直後新生児期の診断		講義	
6	2	産褥期の情報収集		講義	
7	2	産褥期の看護過程		講義	
8	2	産褥期の看護診断		演習	
9	2	新生児期の看護過程（情報収集）		演習	
10	2	新生児期の看護過程		演習	
11	2	新生児期の看護過程		演習	
12	2	産褥期の看護計画		演習	
13	2	産後期の看護過程		演習	
14	2	産後期の看護過程		講義	
15	2	まとめ		演習	
成績の評価方法		レポート課題：100点		認定基準	60点以上で合格
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 日本助産診断・実践研究会 マタニティ診断ガイドブック 医学書院			
備 考					

科目名		精神看護学方法論Ⅰ (治療と看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30(2)		開講時期	2年次	
担当教員		谷本 裕太 小林 聖子 田邊 敏弘			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する		関連資格		
				看護師・精神科認定看護師		
授業概要		精神看護とは何かを学び、各症状における看護の必要性を理解してください。また、安全に関してリスクマネジメントの重要性を理解し、医療事故を防止することが必要となります。精神看護において、人間関係を学ぶことが大切です。理論をしっかり学んでいきましょう。				
科目目標		1. 精神看護の対象とその家族の特徴を理解し、基本的支援を学ぶ 2. 主な精神疾病・障がいの特徴と症状別・経過別看護を学ぶ 3. 精神看護におけるセーフティマネジメントを理解する 4. リエゾン看護・災害時の精神看護について学ぶ 5. 自己理解・他者理解するための自己洞察の必要性和方法を理解する				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	こころの健康障がいの治療と看護 精神療法・心理療法・認知行動療法			講義	谷本 田邊 小林
2	2	こころの健康障がいの治療と看護 薬物療法			講義	
3	2	こころの健康障がいの治療と看護 環境療法・社会療法			講義	
4	2	入院治療の意味 入院から退院までの経過とケア（急性期・寛解期・回復期・慢性期）			講義	
5	2	身体をケアする 終末期ケア			講義	
6	2	症状アセスメントとケアプラン 幻覚・妄想のある患者の看護　せん妄・昏迷のある患者の看護 自殺・自傷行為のある患者のアセスメント　依存患者の看護			講義	
7	2	症状アセスメントとケアプラン 不眠のある患者の看護　拒絶的な患者の看護 興奮状態の患者の看護　不安定状態の患者の看護 攻撃的な行動をとる患者の看護　摂食障害の行動をとる患者の看護			講義	
8	2	安全を守る　精神看護のセーフティマネジメント セーフティマネジメント（医療安全とリスクマネジメント） 精神医療における医療事故			講義	
9	2	ケアの人間関係　治療的人間関係（人間関係論）をアセスメントする ウェーディングバック「臨床看護の本質」 ペプロウ「人間関係の看護論」 トラベルビー「人間対人間の看護」オーランド「看護の探求」			講義	
10	2	カウンセリング　コーチングスキル プロセスレコードの意義と方法 プロセスレコードとは（目的・書き方）			講義 演習	
11	2	ロールプレイング			演習	
12	2	ロールプレイング			演習	
13	2	患者理解とコミュニケーション技法 こころの問題がコミュニケーションに与える影響 （精神障がいのある患者の特徴・薬剤の副作用による特徴）			講義	
14	2	リエゾン看護 災害時のメンタルヘルスと看護			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎		精神看護学1	医学書院	
		系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開		精神看護学2	医学書院	
備　考						

科目名		精神看護学方法論Ⅱ (事例展開)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次	
担当教員		松原 希実子			前期・後期	
実務経験		医療機関において看護師として従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		精神疾患の対象者を包括的なアセスメント技法を理解し援助の方向性を見出す能力を修得する。				
科目目標		1. セルフケアモデル理論を活用し看護実践するためのプロセスを理解する 2. プロセスレコードを活用し、援助関係における自己洞察を深める技術を身につける				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	看護過程展開の技術について (オレム・アンダーウッドモデル理論を活用した展開方法)			講義	松原
2	2	事例紹介 統合失調症の患者 情報提供 情報の整理 フェイスシート記入方法			講義	
3	2	情報の整理 データベース記入方法			講義	
4	2	セルフケアレベルの査定・分析方法・記入方法			講義	
5	2	精神状態の査定の分析方法・記入方法			講義	
6	2	関連図の書き方			講義	
7	2	ケアプラン案計画の作成方法			講義	
8	2	事例展開 ①不安障害の患者 ②双極性障害の患者 ③うつ病の患者			講義	
9	2	情報整理から分析			講義	
10	2	情報の分析からセルフケアレベルを診断			講義	
11	2	関連図の作成			講義	
12	2	ケアプラン案を作成する ★課題提出 (グループワーク・ディスカッション)			講義	
13	2	コミュニケーション技術／プロセスレコード活用法について			講義	
14	2	プロセスレコードの作成			講義	
15	2	まとめ ★課題提出			講義	
成績の評価方法		提出課題：100点		認定基準	提出課題：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学2 医学書院 パトリシア・R・アンダーウッド論文集 看護理論の臨床活用 日本看護協会出版会 オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開 宇佐美しおり ニューヴェルヒロカワ 自己理解・対象理解を深める プロセスレコード 日総研				
備 考						

科目名		看護の統合と実践Ⅱ (国際看護)		科目区分	専門分野	
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2年次	
担当教員		土井 智恵子 岸和田谷 悠子 劉 綺 JICA			前期	
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する 海外において看護活動に従事した経験のある講師が担当する		関連資格		
				看護師・助産師・日本国際看護師		
授業概要		国際的な視点から保健・看護の現状を学び、国際看護の概念と国際看護の必要性を理解し、看護専門職としての役割と連携について考える機会とする。特に、国際看護の考え方と方法、国際協力とその実際について学ぶ。				
科目目標		1. 国際看護の基本を理解することができる 2. 国際看護の活動について学ぶことができる 3. 諸外国の医療や看護制度について理解することができる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	国際看護とは			講義	土井
2	2	国際看護の概念と歴史			講義	
3	2	国際看護活動と国際機関			講義	
4	2	国際協力のしくみ			講義	
5	2	国際救護におけるチーム医療			講義	
6	2	国際看護活動の実際			講義	
7	2	国際保護活動			講義	
8	2	諸外国の医療 諸外国の文化			講義	岸和田谷 劉
9	2	諸外国の考え方 諸外国の医療制度			講義	
10	2	諸外国の政策 諸外国の患者への対応			講義	
11	2	諸外国の患者へのコミュニケーション			講義	
12	2	JICAについて JICA海外協力隊について			講義	JICA
13	2	看護師隊員の体験談（東南アジア）			講義	
14	2	看護師隊員の体験談（南米やその他の地域）			講義	
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：100点		認定基準	筆記試験：60点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 医学書院				
備 考						

科目名		看護の統合と実践Ⅲ (看護研究)		科目区分	専門分野		
授業時数 (単位数)		30 (1)		開講時期	2 年次		
担当教員		野村 佳香	田中 奈絵子		後期		
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する		関連資格			
				看護師			
授業概要		看護現象を客観的に捉え、その中に存在する疑問あるいは問題を科学的に探求する能力を養う。研究課題に関した文献検索と整理・分析の仕方などの看護研究の基礎を学習する。受け持ち患者への看護を通して看護実践の場で生じた問題の解決に向けた論理的思考力を養う。					
科目目標		1. 看護研究の基本を理解することができる。 2. 問題意識を高め、探求する姿勢を養う。 3. 自己の看護実践から看護観を深めることができる。					
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員	
1	2	看護研究とは（看護研究の意義・研究テーマの決め方・看護研究の進め方・倫理的配慮・文献検索・文献の引用方法と文献リストの書き方）			講義	野村	
2	2	量的研究方法論・質的研究方法論			講義		
3	2	事例研究オリエンテーション			講義		
4	2	事例研究論文作成①			個人ワーク	田中	
5	2	事例研究論文作成②			個人ワーク		
6	2	事例研究論文作成③			個人ワーク		
7	2	事例研究論文作成④			個人ワーク		
8	2	事例研究スライド作成／発表原稿作成①			個人ワーク		
9	2	事例研究スライド作成／発表原稿作成②			個人ワーク		
10	2	事例研究スライド作成／発表原稿作成③			個人ワーク		
11	2	ケースレポート発表準備・リハーサル			合同		
12	2	ケースレポート発表準備・リハーサル			合同		
13	2	ケースレポート発表会			合同		
14	2	ケースレポート発表会			合同		
15	2	ケースレポート発表会			合同		
成績の評価方法		100点	認定基準	60点以上で合格			
教科書・参考書 参考資料等		教科書は使用せず必要時資料を配布します					
備 考							

3 年次

科目名		看護の統合と実践Ⅰ (医療安全・救急看護・災害看護)	科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		60(2)	開講時期	3年次	
担当教員		中村 直晶 中田 恵美		表 佳代 田村 麻衣	
実務経験		医療機関において看護師として従事する講師が担当する	関連資格		
			看護師・救急看護認定看護師・日本DMAT隊員		
授業概要		安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ぶ。メディカルコントロール体制下にある救急現場、搬送過程における救急医療についての知識を系統的に学ぶ。災害発生から自分や家族の身を守る防災や減災対策を理解し、災害という異常事態のなかで医療機関が行う救護活動の全体像から災害看護の役割を理解し、将来、災害救護活動の基礎的能力を養う。			
科目目標		1. 医療安全の基礎的知識を学ぶ 2. 救急医療についての知識を系統的に学び、看護の実践を理解する 3. 災害時の看護の役割を理解し、看護救護活動の基礎を学ぶ			
授業計画		授 業 内 容		授業形態	担当教員
1	2	医療安全 医療事故予防及び安全の基盤となる考え方		講義	中田
2	2	医療安全 事故防止の考え方		講義	
3	2	リスク発生の原理とヒューマンエラー①		講義	
4	2	リスク発生の原理とヒューマンエラー②		講義	
5	2	診療の補助に事故防止①		講義	
6	2	診療の補助に事故防止②		講義	
7	2	療養上の世話の事故防止①		講義	
8	2	療養上の世話の事故防止②		講義	
9	2	医療安全とコミュニケーション		講義	
10	2	看護師が直面する職業感染と予防策		講義	
11	2	組織的な安全管理体制への取り組み		講義	
12	2	我が国の救急医療体制 救急看護の法的・倫理的側面 救急看護の対象理解 救急看護体制と看護の展開		講義	表 田村
13	2			講義	
14	2			講義	
15	2			講義	
16	2			講義	
17	2			講義	
18	2			講義	
19	2			講義	

20	2	災害発生の現状と今日的課題 災害看護の歴史的発展	講義	中村	
21	2	災害発生の現状と今日的課題 災害の定義・災害と健康障害	講義		
22	2	災害発生の現状と今日的課題 災害救援活動と看護の役割	講義		
23	2	災害発生の現状と今日的課題 災害サイクルに準じた看護の特徴	講義		
24	4	STARTトリアージの実際	演習		
25					
26	2	防火対策の基本	講義		
27	2	防火対策の基本	講義		
28	4	地域防災セミナー参加	演習		
29					
30	1	中間試験			
31	1	終講試験			
成績の評価方法		筆記試験：１００点	認定基準	筆記試験：６０点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 看護の統合と実践３ 災害看護・国際看護 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践２ 医療安全 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学３ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院			
備 考					

科目名		看護の統合と実践Ⅳ (看護管理・統合演習)		科目区分	専門基礎分野	
授業時数 (単位数)		3 0 (1)		開講時期	3 年次	
担当教員		山本 利江子 山田 直子			前期	
実務経験		病院において看護管理者として従事した経験のある講師が担当する 看護学校養成所において顧問職に従事している講師が担当する		関連資格		
				看護師		
授業概要		看護管理の科学的かつ実践的な知識を深め、看護単位の運営に関する諸原則を学び、質の高い看護実践を可能にするための「しくみ」を構築する方策について学ぶ。事例を通して緊急・突発の要件下での状況判断と対応力を養う。模擬患者の急変場面において、医療安全・医療倫理を踏まえたフィジカルアセスメントと診療補助行為について学ぶ。複数の模擬患者への看護を行う際の業務の調整・安全確保の行動を学ぶ。				
科目目標		1. 看護における管理の視点を理解する 2. 看護管理を行う必要性及び効果を理解する 3. 看護管理を行う上での必要要素（人・物・お金・時間等）について理解する 4. 全ての看護職に看護管理能力が求められることを理解する 5. 実際の看護管理プロセスについて理解する 6. 複数受け持ちの対象に応じた看護を実践するための方法が考えられる 7. 臨床現場を想定した看護の実践ができる 8. 医療安全・医療倫理を踏まえた注射業務が実践できる				
授業計画		授 業 内 容			授業形態	担当教員
1	2	看護管理とは 看護とマネジメント・看護におけるマネジメント 看護を取り巻く諸制度			講義	山本
2	2	看護ケアのマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能			講義	
3	2	患者の権利の尊重			講義 グループワーク	
4	2	安全管理 医療事故対策			講義	
5	2	チーム医療 看護業務の実践 看護職のキャリアマネジメント			講義	
6	2	看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメント			講義	山田
7	2	看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント			講義	
8	2	施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント 情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価			講義	
9	2	マネジメントに必要な知識と技術			講義	
10	2	演習オリエンテーション（事例に基づく複数患者受け持ち） 看護診断・看護目標・看護計画・行動計画立案（急性心筋梗塞／脳梗塞）			演習	
11	6	各実習グループで計画に沿って看護実施（点滴静脈注射管理含む）			演習	
12						
13						
14	2	まとめ（SOAP記載）			演習	山田
15	2	終講試験／まとめ				
成績の評価方法		筆記試験：7 0 点 演習：3 0 点		認定基準	合計：6 0 点以上で合格	
教科書・参考書 参考資料等		系統看護学講座 統合分野 看護管理 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院				
備 考		演習までに技術練習を実施してください。				



学籍番号

名前